

令和2年度

入賞作品集



「少年の主張」
中学生話し方大会



「家庭の日」に
関する作文・図画



広島県の青少年のマスコット
「ゆっぴー」

公益社団法人青少年育成広島県民会議

青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとすれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人)

— 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会)

— 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然)

— 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界)

— 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括)

— 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。

は じ め に

「少年の主張」・中学生話し方大会2020（第42回「少年の主張」広島県大会，第54回中学生話し方広島大会）を広島県中学校話し方連盟と共催で，令和2年9月5日（土）に開催しました。

今大会には，県内中学校の24校から1,086編の応募があり，その中から原稿審査を通過した基準を含む16名が，それぞれの主張を力強く発表しました。

発表内容としては家族，学校，日常生活，地域社会と様々であり，素晴らしい個性を感じるものでした。自分の体験を通じた実感や考えが説得力を持って伝えられていたと思います。また，その話し方・表現も自然で効果的なものでした。

この作品集は，発表者全員の発表内容を記録しております。

「家庭の日」に関する作文・図画は，県内の小・中学生を対象に募集を行い，県内の小学校37校，中学校23校から作文・図画を合せて1,328作品の応募がありました。

これらの作品は，日常生活において家族と自分とのかかわり方で感動したこと，家族に感謝している心や存在の大切さなど，自分の気持ちを素直・純粋に表現しています。

応募作品の中から事前審査を通過した作文30作品，図画221作品を厳正に審査し，特選作文3作品，特選図画1作品，入選作文10作品，入選図画5作品を掲載しております。

この作品集を多くの皆様にご覧いただき，小・中学生の思いを受けとめていただければ幸いです。

終わりに，この事業の実施に当たりご協賛いただいた国際ソロプチミスト広島，広島清流ライオンズクラブ，公益財団法人広島青少年文化センター及び県内13ロータリークラブ並びにご協力いただいた関係者の皆様方に深く感謝いたしますとともに，今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年12月

公益社団法人青少年育成広島県民会議

会 長 神 出 亨

「少年の主張」に関する目次

○第42回「少年の主張」広島県大会・第54回中学生話し方大会会場風景	1
○第42回「少年の主張」広島県大会・第54回中学生話し方大会発表者一覧	2
○受賞者一覧	
広島県知事賞	
ほたるの里の絆	広島県立広島中学校 2年 うえの 上野ちひろ … 4
公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞	
今を大切に	東広島市立松賀中学校 3年 えんどう 遠藤 尚貴 … 5
広島県中学校話し方連盟会長賞	
知ろうとすること 受け継いでいくこと	三次市立川地中学校 2年 やまさき 山崎 滉太 … 6
国際ソロプチミスト広島会長賞	
本当の私を知ってもらうために	熊野町立熊野東中学校 3年 よしだ な な み 吉田 菜々美 … 7
広島清流ライオンズクラブ会長賞	
IT その二つの顔	広島市立瀬野川中学校 3年 ししど 穴戸 しんいち 心一 … 8
優 秀 賞	
コロナに負けない！	三原市立第三中学校 3年 たまえ 玉江 はな 華 … 9
心にオアシスを	広島市立大塚中学校 2年 こうだ 郷田 か ほ 果歩 … 10
いっそう強くなった将来の夢	庄原市立比和中学校 2年 つだ 津田 ほのか … 11
優 良 賞	(発表順)
忠恕	坂町立坂中学校 2年 ひがし 東 けんせい 剣生 … 12
視野を広げる	広島市立牛田中学校 1年 おおつぼ 大坪 り こ 莉子 … 13
言葉の魔法	竹原市立賀茂川中学校 3年 すぎやま 杉山 あおい 葵 … 14
見方を変えよう	福山市立城北中学校 3年 おおつ 大津 たかひろ 貴寛 … 15
才能の有無より人としての成長	三次市立甲奴中学校 3年 ふじい 藤井 お と 継音 … 16
心	廿日市市立吉和中学校 3年 きわ 金 チュヒ … 17
絶対に無駄じゃない	広島市立伴中学校 3年 しらはま 白浜 かりん 夏鈴 … 18
基 準 賞	(発表順)
第三者と共に	広島市立江波中学校 1年 みうら 三浦 ももな 桃奈 … 19
○講 評	
審査員長 和田 晋 広島市教育委員会教育センター主事・比治山大学非常勤講師	20
○第42回「少年の主張」広島県大会・第54回中学生話し方広島大会開催要領	22
○審査員及び審査基準	24
○「第42回少年の主張全国大会 ～わたしの主張2020～」内閣総理大臣賞 受賞作品	
言葉を紡ぐ	鹿児島県霧島市立横川中学校 3年 いけじま 池島 おとわ 音羽 … 25

「家庭の日」に関する目次

特選（広島県知事賞）

●作文の部

海と心の祖父	呉市立呉中央中学校	1年	宮岡 隼都	… 26
いってらっしゃい	呉市立音戸中学校	3年	桐谷 友里	… 27
大きいおばあちゃん	広島市立宇品中学校	3年	宮本 優	… 28

●図画の部

かぞくみんなで集まって楽しい時間ができた	福山市立御幸小学校	3年	門田 心	… 38
----------------------	-----------	----	------	------

入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

●作文の部

おじいちゃんおばあちゃん大すき	東広島市立龍王小学校	2年	今井 怜央奈	… 29
家族の力でできている夕飯の時間	東広島市立三ツ城小学校	5年	江口 結菜	… 30
わが家の家訓	広島市立楠那小学校	5年	大坂 柊真	… 31
私の父と母	庄原市立庄原中学校	1年	天野 桜水	… 32
家族の距離感	呉市立呉中央中学校	1年	世良 麻琴	… 33
チーム康平	福山市立培遠中学校	2年	島原 康平	… 34
家族の応援、力になる	広島県立三次中学校	2年	中村 隼翔	… 35
素晴らしい家族との時間	広島市立五月が丘中学校	3年	角山 幹太	… 36
良きライバル	広島市立宇品中学校	3年	日山 花音	… 37

※他に広島市立宇品中学校に受賞者がおられますが、本人の希望により掲載を控えさせていただきます。

●図画の部

ちいさいときのわたしとパパ。	広島市立楠那小学校	1年	中野 世理	… 39
なつやすみにいえて、プールをしたよ。	呉市立安登小学校	1年	森下 英太	… 39
レオマでお母さんとスライダー楽しかった。	呉市立坪内小学校	2年	中原 愛結	… 39
家庭の菜園が、出来る事が家庭の幸せな日々。	広島市立戸坂小学校	4年	杉浦 芭奈	… 39
去年行った水族館の魚を家族の手形で表した。	福山市立御幸小学校	6年	山成 花凜	… 39

令和2年度「家庭の日」作文・図画募集要綱	40
----------------------	----

審査員及び審査要領	41
-----------	----

令和2年度応募校一覧	42
------------	----

「少年の主張」・中学生話し方大会 2020

日時：令和2年9月5日（土）10：00～14：00

場所：広島県社会福祉会館（広島市南区比治山本町12-2）



集合写真



大会開始前の客席



審査員・会場風景



主催者及び来賓登壇



表彰式の風景

発表者一覧



基準 「第三者と共に」

広島市立江波中学校

1年 ^{みうら}三浦 ^{ももな}桃奈



1 番 「忠恕」

坂町立坂中学校

2年 ^{ひがし}東 ^{けんせい}剣生



2 番 「視野を広げる」

広島市立牛田中学校

1年 ^{おおつぼ}大坪 ^{りこ}莉子



3 番 「コロナに負けない!」

三原市立第三中学校

3年 ^{たまえ}玉江 ^{はな}華



4 番 「IT その二つの顔」

広島市立瀬野川中学校

3年 ^{ししど}宍戸 ^{しんいち}心一



5 番 「言葉の魔法」

竹原市立賀茂川中学校

3年 ^{すぎやま}杉山 ^{あおい}葵



6 番 「見方を変えよう」

福山市立城北中学校

3年 ^{おおつ}大津 ^{たかひろ}貴寛



7 番 「ほたるの里の絆」

広島県立広島中学校

2年 ^{うえの}上野ちひろ



8 番
「才能の有無より
人としての成長」

三次市立甲奴中学校

3年 ふじい おと
藤井 継音



9 番
「心にオアシスを」

広島市立大塚中学校

2年 こうだ かほ
郷田 果歩



10 番
「本当の私を知って
もらうために」

熊野町立熊野東中学校

3年 よしだ な な み
吉田 菜々美



11 番
「知ろうとすること
受け継いでいくこと」

三次市立川地中学校

2年 やまさき こうた
山崎 滉太



12 番
「いっそう強くなった
将来の夢」

庄原市立比和中学校

2年 つだ
津田 ほのか



13 番
「心」

廿日市市立吉和中学校

3年 きむ
金 チュヒ



14 番
「今を大切に」

東広島市立松賀中学校

3年 えんどう なおき
遠藤 尚貴



15 番
「絶対に無駄じゃない」

広島市立伴中学校

3年 しらはま かりん
白浜 夏鈴

県知事賞



ほたるの里の絆

広島県立広島中学校

2年 ^{うえ}上 ^の野 ちひろ

私の住む「竹原市仁賀町」という小さな町は、ホタルが夏のおとずれを教え、秋には町一面が黄金色の稲につつまれる。そんな町です。誰かが困っていると、この町の人は必ず「大丈夫?」と声をかけてくれます。それはきっと、皆が人と人との関わりを大切にしなければならないことだと私は思います。

この町の学校では毎年たくさんの行事が行われます。普通なら学校の行事の主役は児童…なのですが、この町はちがいます。運動会や学習発表会、神明ばやしやもちつきなどは、いつも地域のおじいさんやおばあさんも一緒に、町のみんなが主役です。だから子供たちは皆地域の人ととっても仲が良かったです。地域の人達も、私たちに会って、

「この前の学芸会よかったよ。」

と元気が出る言葉をかけてくれます。

お正月になると、おばあさんたちは年賀状を送ってくれます。そこには「あなたたちの太鼓を聴いて涙が出ました。日本一の和太鼓です」と書かれていました。まるで本当の祖父母みたいに接してくれて、私たちの太鼓でこんなにも喜んでくれて、嬉しくて、嬉しくて、思わず頬が緩みました。

私が6年生の年の夏、この町も西日本豪雨災害の被害にあった町の一つでした。山のいたるところがくずれ落ち、茶色い地面がむき出しに。私の家も水につかり泥だらけです。毎日シャベルを手に泥のかき出し作業に明け暮れていた頃、

「来たよー。」

という声がしました。

誰だろうと思いつつ声のする方に行くと、そこにはシャベル片手に作業着姿の近所の人達が立っていました。「大変なときこそ協力しなきゃ。」

と言って、皆で泥のかき出し作業を手伝ってくれました。きっと皆だって大変なはずです。でも、手伝ってくれた友達のお母さんは、父や母がお礼を言うと、

「困ったときはお互い様よ。」

と笑顔で返してくれました。しばらくすると、おばあさんが

「差し入れ持ってきたよ。」

と両手いっぱいにご飯を届けてくれました。

私は胸が熱くなりました。困ったときはお互いに助け合う。よく聞くことだけど、意外と難しいことで、自分を優先させることだってできるのに、それでも助け合うことが自然とできて、この町の人にとってはそれがあたりまえになっている。みんなの優しさと温かさで、私の胸はいっぱいになりました。

この町は、とても小さいし、決して便利がいいわけではありません。でも、だからこそ町の人との関わりを大切に、お互いに助け合うことができるんだと思います。しかし、この町では今、過疎化が進み、仕事などの関係でこの町から出て行く人も少なくありません。それだけでなく、少子高齢化が急進し、小学校の児童は全員で17人。そのうちの半分は、通学区域に関係なく、市町村内のどこからでも入学を認めるという「特認校制度」で別の町から来ている。というのが町の現状です。このままだと、私が大人になった時、地域全体で運動会や発表会ができないかもしれません。それは本当にさみしいです。

この町には昔から歌われている歌があります。「心をあわせて ほら手をつなぎ 人の心のやさしさや愛を伝える ほたるの里をぼくらみんなで守っていこうよ」日本では今、「ほたるの里」と呼ばれているような町が少なくなっていると言われています。

昔から変わることのない人の温かさ、活気にあふれるこの町。だからこそ、次世代を担う私たちが、この町の誇りと未来を守っていかなければならないと思うのです。

50年先も100年先も「この町のいい所は町の人みんなが温かいところ」と自信をもって言えるように。

公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞



今を大切に

東広島市立松賀中学校

3年 えん どう なお き
遠 藤 尚 貴

「今を大切にしよう!」

「勉強、部活、友人との関係、今できることを大切にしよう!」

こんな言葉を、これまで何度聞いてきたことでしょうか。僕は、これは全て将来の進路のための言葉だと思っていました。しかし、それだけではないと気づかされる出来事があったのです。

きっかけは、認知症をテーマにした「長いお別れ」という映画です。英語では、認知症の長い時間をかけて、少しずつ色々なことを忘れていく様子を「ロンググッドバイ」と表現するそうです。知らないことや知らない人に囲まれていく不安や孤独。自分の行動を周りから否定される屈辱。混乱した本人を取り巻く周囲の困惑。新聞では、将来高齢者の5人に1人が認知症にかかると書かれていました。これは大変なことだと暗い気持ちでいっぱいになりました。

老人施設でボランティアをしている祖母の手伝いをするとき、高齢の方々とおしゃべりをすることがあります。お菓子を食べたすぐ後に「まだ食べていません。」と言われる方、また、お風呂の後「気持ちよかったですか?」と聞くと、「もう長くお風呂には入っていません。」と答えられる方。ああ、こうやって人は忘れていくんだな、と僕は悲しくなります。

ところが、いつも気難しい顔をされている方や何もおしゃべりされない方が、笑顔になって夢中でお話されることがあるのです。かつて水泳選手として活躍していた方は、不自由になった手を動かして泳ぎを再現し、「兄ちゃん、スポーツしなさいよ。」と言ってくれます。小学生の時、学芸会で代表として発表された方は、「そもそも梅の木というものは。」と表情豊かに声も高らかに暗唱されます。ちらし寿司を作るのが得意だった方は、下ごしらえから順に詳しく話し、「今度うちに食べにいらっしやい。」と誘ってくれます。それらの話が、お会いするたびに、もう10回目であったとしても、僕はその方の生き生きとした顔が見たくて、その話の世界と一緒に楽しませてもらいます。

今まで築き上げてきたことを忘れていくのが認知症です。それなのに、どうしてこんなにも昔のことを鮮明に覚えていらっしやるのでしょうか。そこで、僕は考えました。認知症というのは長い時間をかけてお別れしていくのではないのです。必死で打ち込んでいたこと、努力したこと、達成したこと、友との語り。家族の団欒。そんな、『自分が一番輝いていた、幸せな時間に心を遊ばせること』なのです。混乱する日常の中、どんな時も自分に誇りを与え、喜びをもたらせてくれる過去を持っている。それは、なんと素晴らしい人生ではないでしょうか。

僕が将来認知症になったら、どんな人生の場面が僕の救いとなるのでしょうか。学校での僕は、友達の幸せ回想シーンに登場できるような行動ができているのでしょうか。家ではどうでしょうか。反抗期の僕は、両親の記憶シーンから削除されてしまうかもしれません。今を大切に、幸せを積み上げていかなければ、いつまでも心に残る回想シーンとしてカウントされないでしょう。

認知症になった人を介護する側にも相当の苦労があると聞きます。でも、その時その人の幸せ回想シーンに自分が登場していたらどうでしょう。日々の介護の困難を少しでも支える心のパワーになるのではないのでしょうか。

つまり、「今を大切に」は、進路のためだけではなく、今、自分が接している人やモノと誠意をもって全力で向き合わなければいけないことを、僕に教えてくれているのです。

「今を、周りの人とともに大切に。」これが今の僕の目標です。

広島県中学校話し方連盟会長賞



知ろうとすること 受け継いでいくこと

三次市立川地中学校

2年 ^{やま}山 ^{さき}崎 ^{こう}滉 ^た太

僕は、昨年「夏の雲は忘れない」という朗読劇に参加しました。これは、ヒロシマ・ナガサキに落とされた原爆によって父・母を亡くした子供、子供を亡くした親の書き残した手記を、戦争体験のある女優の方たちが朗読するというものです。今まで、平和学習をしてきて、平和の尊さや戦争の恐ろしさを学んできたつもりでしたが、本当には分かっていなかったことに気づきました。朗読劇に参加して、自分の声を、被爆された方の言葉に重ねて、初めて理解できたのかもしれません。

2019年7月5日、僕たち川地中学校の1年生は、「夏の雲は忘れない」という朗読劇を観劇し、さらに、その朗読劇に出演させていただきました。プロの方の指導や限られた時間の中での練習だったので、とても緊張しましたが、練習すると、大きな声で台本通りに読めるようになり、「よし、これなら大丈夫。間違えずに読めそうだ。」と思っていました。

ほっとしたのも束の間。朗読指導の方に、この『顔からガラスが出てくる。もう2へんめだ。』という部分、どんな気持ちかな?と聞かれました。僕は少し考えました。その場面を想像してみました。浮かんでくるのは、悲しい、苦しいなどの言葉です。一番、苦しいが近いかなと思い、「顔からガラスが」とセリフを読みました。「もう一度。」と言われ、もう一度、「顔からガラスが出てくる。もう2へんめだ。」読み終えましたが、「顔からガラスが」「顔からガラスが」「顔からガラスが」何度読んでも、何度読み方を変えて読んでも、違う。違う。これではない、と。

この時僕は、初めて自分が戦後に生まれ戦争を体験していない。戦争は、教科書や本、先生からの話、ニュースなどを通してしか知らない世代なのだとすることを突き付けられた気がしました。いくら想像したとしても、それは想像の世界の出来事なのだと。

そして、本番。被爆した方の手記に自分の声を重ねて読んでいき、女優の方の思いが詰まった朗読を聞くうちに、本当に胸が苦しく、痛みました。

1945年の夏、ヒロシマ・ナガサキで何があったのか。僕たちが知っていることは、ほんの一部でしかありません。戦後生まれの僕たちは、想像することしかできません。ましてや今の中学生・高校生には遠い時代の話です。しかし、決して無関係ではありません。全ての命を受け継いで、僕たちは今ここにいます。知らないことを知ろうとし、想像しようと努力すること。そして、平和な未来を創っていくことが僕たちにできることではないでしょうか。

最後に、峠三吉さんの詩を読んで、平和への祈りを捧げます。

〈にんげんのにんげんのよのあるかぎり／くすれぬへいわを／へいわをかえせ〉

国際ソロプチミスト広島会長賞



本当の私を知ってもらうために

熊野町立熊野東中学校

3年 よし だ な な み
吉 田 菜々美

突然ですが皆さんに質問です。中学や高校の同窓会で同級生に会ったとき性別が変わっていたとしたら、どう思いますか。普通、驚くと思います。そしてその後、その人に対してどう対応して良いのかわからないと思います。

しかしそれを理解せず拒絶してしまったとしたら、相手はどう思うのでしょうか。

なぜ私がこのような質問をしたのか、それは少しでも性的少数者「LGBT」について理解を深めてほしいと思うからです。

「LGBT」という言葉は現在、政府の広報活動やいろいろなメディアにとりあげられよく耳にするようになりました。意味としては「同じ性別の人しか愛せない」という人や「どちらの性別の人でも愛せる」という人、また「心と体の性別が異なる」人たちのことを表します。その他にも「他人に性的魅力を抱かない人」や「心の性別が男性・女性のどちらかに決められない人」など多くの性のあり方があります。

私もスカートに対する違和感や月経への嫌悪感、気持ち悪さなどに耐えきれずいろいろな人に相談してみようと考えました。しかし「話をして気持ち悪いと思われるかもしれない」「受け入れてもらえなかったらどうしよう」と結局相談できず、自分の中に溜め込んでいました。そうしていつしか心のバランスを崩してしまいカウンセリングを受けることになりました。カウンセラーの先生に心の悩みを聞いてもらうと徐々に心が軽くなり、友達にも「LGBT」について話をするようになっていきました。すると友達も「LGBT」について理解を持ち、私の悩みを話したときには気持ち悪がったりせず受け入れてくれるようになったのです。

私は「本当の私を知ってもらえた」という喜びでいっぱいになり、話をするだけでずいぶん気持ちが楽になるのを知りました。

日本には「LGBT」の悩みを持つ約72%もの人が職場や学校でカミングアウトできず今も悩みを抱えているという調査結果が出ています。

また日本にはこういった性的な悩みを抱えていると考えられる人が調査の結果約10%いると考えられています。

しかしこれらの人たちは「ホモ」「オカマ」「男らしくない」「女らしくない」と言われ、気持ち悪がられたりからかわれたりするなど差別や偏見の目で見られることが多くあるのです。

それではなぜ性的少数者はこのような差別や偏見を受けるのでしょうか。

「LGBT」という言葉の認知度は現在、約91%と2016年度の調査結果約56.6%に比べて高い結果となっています。しかし「LGBT」に関する内容の理解率は57.1%とまだまだ低いと言えるでしょう。

また「男は男らしく」「女は女らしく」といった考え方や「恋愛は男女ですべきものだ」という考え方が社会に根強く残っているのではないのでしょうか。

こういった考え方が性的少数者にとっては壁になり差別や偏見を生んでいるのではないかと私は考えています。

では、どうすれば「LGBT」について理解してもらえるのでしょうか。

私は学校でも「LGBT」についてしっかりと学習を行うべきだと考えます。

現在、保健体育や道徳の授業で「LGBT」という言葉は出てきますが、その詳しい内容については説明を受けていません。これではいくら言葉を知っていてもその詳しい内容を理解することは難しいと思います。

だからこそ、小学校や中学校から「LGBT」について学び、理解をすることで「LGBT」への差別や偏見がなくなっていくのではないかと考えています。

私はこのような悩みを抱えている人が世の中にはたくさんいることを知ってもらいたい。そして理解し受け入れてもらえる社会を作っていきたい。

一人ひとりが常識にとらわれず「LGBT」のことを知り受け入れようとした意識を持つだけで社会は変化していくのです。

あなたの周りに性的な悩みを抱え苦しんでいる人がいるかもしれません。

もしそういった状況を知ったときあなたはその人になにをしてあげられますか。

一度真剣に考えてほしいと思います。

広島清流ライオンズクラブ会長賞



IT その二つの顔

広島市立瀬野川中学校

3年 ^{しし}穴 ^ど戸 ^{しん}心 ^{いち}一

午後7時、我が家の夕食の時間。椅子は4つ。僕と姉、向かいには父と母。あれ？父の椅子は空っぽです。

「おーい心一、勉強頑張っとるかー。部活はもうできるようになったんか？」

この状況、もうお分かりですね。手を振る父の笑顔は約10センチメートル四方の長方形の中にあります。そう、ビデオ電話なのです。スマホでつながっています。単身赴任をしている父は、このコロナ騒動で帰られなくなったのです。そこで夕食時にはこのようにオンラインでつながり、父と一緒に食事をしているのです。このITツールは何百キロという距離を飛び越して家族をつないでくれるいわば「絆のツール」です。僕たちにとって、とてもありがたく、なくてはならないものとなっているのです。

一方、ITツールによって家族の中に暗い影が忍び寄ってきたこともありました。そのツールもスマホでした。2年前、僕が中学1年生のときでした。初めて買ってもらった自分だけのスマホ。うれしくてうれしくて、暇さえあれば朝から晩までいじっていたのです。いつしか相手はゲームになりました。ゲームに依存していくのに時間はかかりませんでした。依存とは、「他に頼ることで成り立っていること。」まさしくその当時の僕の生活や存在はゲームに頼って成り立っていたのです。夜遅くまで部屋でスマホのゲーム。朝起きられない。授業中はぼんやり。部活にも身が入らない。直さなくてはいいけない、これじゃいいけないなんて分かっていたのです。でも、それは頭の中でだけ。手は勝手にスマホに伸びるのです。分かっているやめられない恐怖。そこからくるあせり、イライラ、もう地獄でした。見かねた両親が、家の中の電子機器を何か月も僕から遮断しました。すべての友達からシャットアウトされたみたいで辛かった。苦しかった。寂しかった。しかし、時間が薬になったのです。1か月経った頃、僕は助かりました。立ち直ることができたのです。両親には心から感謝しています。

ところで僕が体験したこの二つのことは一体どういうことなのでしょう。スマホでつながりビデオ電話は、人と人との絆を深めるいわば『天使』のようなもの。一方スマホでのゲームは自分自身を滅ぼしかねないいわば『悪魔』のようなもの。なぜここまでスマホは顔を変えてしまうのでしょうか。僕は考えてみました。その入り口の違いは「いつでもどこでも」使えるか、使うかということです。ビデオ電話の場合、使おうと思えば、互いに都合を合わせる必要があります。つまり、「いつでもどこでも」使えないのです、使わないのです。要するに使う人が使えれば「判断」するのです。したがって、そこには使う人の確たる「主体性」が存在するのです。

では、ゲームはどうでしょう。別に他の人と都合を合わせなくてもいいですね。使う時間と場所は自由です。つまり、「いつでもどこでも」使えるのです。要するに使える、使わないの「判断」はありません。したがってそこには使う人の「主体性」は奪われることが多いのです。これが、スマホというツールが『天使』になるか、『悪魔』になるかの決め手だと考えました。

僕は14歳です。しかし、そのたかだか14年の人生の中でスマホというツールの二つの顔を見ました。ITは、これからどんどん進化していくはず。それによって「いつでもどこでも」使えるツールもますます進化することでしょう。僕は、正しい「判断」ができるのでしょうか。「主体性」を持ってITと向き合っていけるのでしょうか。

突きつけられた課題は大きいですが、ITの二つの顔を忘れず、僕も進化していきたいと強く思っています。

優 秀 賞



コロナに負けない！

三原市立第三中学校

3年 ^{たま}玉 ^え江 ^{はな}華

「もうどうでもいいじゃん」

いつの間にか私は、コロナに負けてしまっていました。

2020年3月、新型コロナウイルスの蔓延を防ぐために、学校が休校になりました。でもその頃の私は、「どうせすぐに収まるじゃろう。私は身体も強いから大丈夫」と軽い気持ちで考えていました。

卒業式。生徒会長である私は、在校生代表として全校生徒の前で読むはずだった送辞を卒業生だけの前で読みました。それでも私は4月になったらまた元の生活に戻れると信じていました。しかしコロナの猛威は留まるところを知らず、どんどん拡大。私の住む広島県でも、連日の感染が伝えられ、緊急事態宣言、外出自粛、休校は5月末まで続きました。

仲間とともに輝け三中。これは約20年前の生徒会テーマであり、今では私たちの合い言葉となっている三中の学校教育目標です。このテーマの下、やりたいことはたくさんありました。でも、学校行事も、縦割り学級でいろんなことを競い合う生徒会行事、三中チャレンジカップも、その多くが中止になったのです。特に集団行動グランプリは、私たち生徒会執行部にとっても3年生にとっても、リーダーとして臨む初めての大きな行事で、みんなのやる気も一気にアップするはずでした。私もとても楽しみにしていたので、なくなると聞いたときは、本当にがっかりしました。

そしてコロナは私の夢も奪いました。私は陸上短距離の選手です。昨年100Mで中国大会に出場。全国大会の標準記録まであと0.2秒でした。今年は全国をねらっていたのに、全国大会は中止。私は憧れの舞台を目指すことすらできなくなったのです。

6月に学校が再開。最初はまだ前向きな気持ちでした。生徒を代表してある新聞社の取材を受けた時も、新聞記者の方に、「今はマイナスのことが多いけれど、そんな中でもプラスを見つけていきたい」と話しました。

しかし私は、いつの間にか無気力になっていました。何でもすぐに「まあいっか」と諦め適当にすませる。「私だけじゃないし」と周囲のせいにしてどんどん自分に甘くなる。「あなたは三中のリーダーなのにどうしたの」と、先生方から注意を受けることも度々ありました。そして何より、あれほど一生懸命取り組んでいたはずの陸上の練習でも、自分で気持ちを作ることができず、「適当」に取り組むことが増えてきたのです。

そんな時、国語で『対比』と『要約』を使って主張文を書く」という勉強をして、二つのニュース記事を読み比べました。一方は保育士がコロナに感染した保育園の玄関に、誰かが応援旗をかけたというもの、もう一方は、院内感染が発生した病院で、スタッフの6割が、中傷や不当な扱いを受けていたというものでした。二つを対比させながら、様々なことを考え議論していくうちに、私は自分自身の心も、新型コロナウイルスに冒されていたことに気がついたのです。

改めて考えてみました。コロナは人の心の弱い部分、醜い部分を浮かび上がらせる。でもそれは、優しい部分を刺激することもある。私達はこれからしばらく with コロナと言われる時代を生きていかなければならない。だとしたら、どちらの自分になりたい？ これまでたくさんの人に支えてもらいながら、自分でも必死に努力して頑張ってきたのに、コロナなんかのために全て投げ出しているの？

私は諦めません。以前自分自身が語っていたように、マイナスの生活の中でもプラスを見つけていきたい。「嫌な自分」に気づいたからこそ、「本当になりたい自分」を目指したい。こんな時だからこそ、感謝しよう、努力しよう。三中生みんなが輝ける「何か」を探そう……。生徒会長の私も、陸上選手の私も、そして受験生の私も……。

「コロナに負けない!」



心にオアシスを

広島市立大塚中学校

2年 郷 田 果 歩

あなたは、相手を傷つけるような言葉を言ったことがありますか？ 相手を傷つける言葉のことを「悪口」と言います。おそらく、日常生活の中で、悪口を見聞きしたり、実際に口にしてしまったりすることがあるかと思います。私もその一人です。「この言葉を言ったら、相手が傷ついてしまう。」と分かっているのに、無意識のうちに口にしてしまうのです。では、なぜ私たちは、相手が傷つく言葉を口にしてしまうのでしょうか。

私は、悪口には一つ大きな特徴があると思います。それは、「トゲ」があることです。また、その「トゲ」は、猛毒を持っており、悪口を言う度に、自分を守るためにトゲで相手を威嚇したり、心を突きさしたりします。身体だけではなく、心にまで毒が回り、一生消えることのない深い傷を負わせる場合もあります。したがって、私は、悪口を口にする人のことを「サボテン」のような人だと考えます。サボテンは、砂漠に生息しています。砂漠は、水や草花がほとんどなく、孤独な環境です。悪口を言う人は、心が乾燥し自分に対する自信が弱いのです。例えるなら、オアシスになくなくてはならない水分が不足しているような状態なのだと考えます。また、多くの人は「もしかしたら、自分も人から悪口を言われているかもしれない」という不安や自信のなさから、仲間と協力して人の悪口を言ってしまいます。そうすることによって、少しでも自分自身の身を守ろうとしているのかもしれません。

では、どうしたら悪口を少しでも減らすことができるのでしょうか。私は祖父から、「三つのトゲ」の話聞いたことがあります。三つのトゲとは、「言葉のトゲ」、「目のトゲ」、「心のトゲ」です。人と接する時に、その言葉にトゲがないか、その目つきにトゲがないかを、気をつけることが大切だと思います。表情や態度として表れ易い言葉や鋭い目つきは、相手の人からも分かり易く、無意識のうちに嫌な気分させてしまいます。これら二つのトゲは、「心のトゲ」が大きく関係しているのです。優しい心や相手を思いやる心が豊かである人は、心のトゲが少なく、心のオアシスにたっぷり水がたくわえられているのだと考えます。

サボテンが生息する砂漠が緑あふれる野原になるためには、オアシスの水が必要不可欠になります。人の心も、水をたっぷり含んだオアシスのように潤えば、人を傷つける事を減らせるのではないかと思います。

私は、中学1年生の時に、「ほめ言葉のシャワー」という取り組みをしました。ほめ言葉のシャワーとは、クラスの全員が、毎日一人の人の良い所をほめ合うという取り組みです。実際にほめ言葉のシャワーを日々重ねる事で、その人のことを色々な角度から見る事ができて、それまでは自分とは相性が悪いと思いこんでいた人や、苦手意識から遠ざけていた人との距離を縮めることができるようになりました。人の良い所を多く見つけることで、その人の個性を尊重できるようになります。一方で、人からほめてもらえることによって、自分自身に少しずつ自信を持つことができました。ほめ言葉のシャワーをしている時の目は、人の心を突きさすようなトゲのある目つきではなく、相手を思いやる優しいまなざしになっていたと思います。

この取り組みを日々重ねていったことにより、一人一人の個性をみんなで受け入れていくことができるようになり、まとまりのあるクラスになっていきました。さらに、心が潤うことによってクラスの雰囲気もいっそうよくなり、常に笑顔があふれるクラスになっていったように思います。

この体験から私は、思いやりの心を持ち、一人一人の心にオアシスをつくれるよう心がけていくことによって悪口が減り、その悪口によって傷つく人が減っていくと思います。

優 秀 賞



いっそう強くなった将来の夢

庄原市立比和中学校

2年 津 田 ほのか

「優しい心で患者さんと向き合える看護師さん」になりたい。小学校2年生から抱いている私の夢です。私が看護師になりたいと思ったのは、祖母の入院がきっかけでした。3か月間毎日学校帰りに、休みの日は朝から病院に通いました。その時出会った先生方や看護師さんの優しさと、歩けない祖母のお世話をしてくださる姿にとっても感動しました。「やさしくしてくれてありがとう」と心の中でつぶやいていました。

私は学校休業中に、新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに、夢を叶えたいとの思いがいっそう強くなりました。

テレビや新聞で、新型コロナウイルス感染症についてのニュースが来る日も来る日も報じられ、暗く怖い報道ばかりが流れてきました。感染したらどうしよう。死んでしまうのではないかと。といった恐怖から、差別や偏見が生まれ、社会全体が負の方向へ進んでいくかのようでした。皆さんは、日常生活がここまで一変することを想像できていたでしょうか。私は正直なところ、インフルエンザの流行ぐらいにしか思っていませんでした。ところがどうでしょう。毎日毎日感染者は増え、亡くられる方も増加。流行に歯止めもたらず、コロナの怖さが身に沁みました。

私は、ニュースを見て、コロナウイルスに感染するかもしれないという恐怖のあまり、人として大切な人権をお互いに守れなくなってしまうのではないかと感じました。

そんな中、中国新聞の記事の中に、広島市立舟入病院の脇の土手に、地域の方が「ありがとう」の文字を横断幕にして病院を見上げ拍手を送っている写真が掲載されていました。

「ヒーローあなたにエール」の見出しとともに、治療に奮闘する医師や看護師に感謝を伝える「フライデーオベーション」が広島県内で始まったことを伝える記事でした。心が温まりました。そして、私自身もエールを送り、手をたたき続けました。自らの命を懸け怖さを抑え、働かざるを得ない医療現場の方々に、感謝するどころかひどい誹謗や中傷。関わっている方々への差別、近所の怖い目、家族の方々への中傷は想像を絶するものだと思います。自分も感染するかもしれないという恐怖の中で、働くことは誰にでもできることではありません。それでも、自分に何かお手伝いできることはないかと勇気ある行動をされている看護師さんにとっても感動しました。

コロナウイルスには三つの感染症があります。一つは病気そのもの。二つ目は不安と恐れ。三つ目は嫌悪・偏見・差別です。今回の学校休業中に、私は自分自身を見つめ、人を傷つけることなく、みんなが協力し、一つになって負のスパイラルを断ち切ることが必要だと分かりました。そして、「看護師」という職業は、誰に対しても公平に向き合い、差別なく行われる仕事だと思いました。

「けがや病気で傷ついた患者さんを回復させてあげたい。」どんな状況でも、自分のことは後回しにしてでも「優しさ」をもって患者さんに接することができる。その気持ちは、今、社会に必要な「優しさ」だと思いました。

「優しい心で患者さんと向き合える看護師さん」になりたい。私はまだまだ未熟ですが「優しい」看護師さんになって、患者さんと向き合い、精いっぱいお世話をさせていただこうと決意を新たにしました。

優 良 賞



忠 恕

坂町立坂中学校

2年 ^{ひがし}東

^{けん}剣 ^{せい}生

「忠恕」この言葉はぼくが大好きな言葉です。

ぼくが通っている剣道教室では、先生が毎年、年の初めに1年間のテーマを決めます。そのテーマが昨年は、「忠恕」でした。ぼくは、1年前までその言葉を聞いたことがなく、全く意味がわかりませんでした。しかし、この言葉を深く知り、剣道をしていく中でその年のテーマとしてだけでなく、これからもずっと大切にしたい言葉となりました。

「忠」とは自分の心のままに尽くすこと、すなわち誠実さです。

「恕」とは自分の心を照らして他の人の心を推し量り、自分の嫌なことを人にしないという心掛け、すなわち思いやりです。

「忠恕」とは2,000年以上前に中国の孔子が唱えた論語の精神で、人間の最も基本的な徳とされています。

ぼくは、この「忠恕」という言葉をぼく自身の剣道や普段の生活に生かし、多くの人に知ってほしいと思いました。

ぼくは中学生になってから、スポーツは剣道だけをしています。小学生の頃は陸上や水泳もしていました。小学生の頃は何気なく色々なスポーツをしていましたが、剣道はこれまでしてきた他のスポーツとは大きく違うところがあると感じています。それはかけ引きをすることです。剣道の試合では自分が相手にこうしたから相手がこう動いた、次はこう打つ、というような難しいかけ引きがあります。剣道は相手の気持ちを考え、先を読まなければなかなか勝ちにつなげることができません。しかし、ぼくはこのかけ引きが苦手です。技は稽古を積み重ねれば上達するものの、心を磨き相手とかけ引きをするという精神は、稽古に時間をかけるだけではとても難しいと感じています。

「忠恕の精神を実際に行うには、他人に思恵を施すばかりではダメなものである。時には威圧を示さなければならぬ場合もある。」と孔子は述べています。

ぼくは試合で負けたとき、よく先生に言われる言葉があります。それは「相手に心を動かされている」というものです。剣道は相手に心を動かされるばかりでは、なかなか勝つことができません。自分が相手をどう動かすかそのためには孔子が述べている威圧をどう示すかを考え、「忠恕」の精神で戦える剣士になりたいと思っています。

そして、剣道では礼に始まり礼に終わるというルールがあります。試合に勝ってもガッツポーズをすることはありません。相手への敬意を示し、礼儀・礼節をもって試合に臨むことは、勝敗よりも重要であるとされているからです。

このことは剣道だけでなく、ぼくたちの普段の生活でもとても大切なことだと思います。

2021年は東京でオリンピックが行われる予定です。さまざまな国の人が日本に足を運びます。日本人として「忠恕」の精神でおもてなしをする大切な機会だと思います。国が違えば文化も違います。日本人一人一人が思いやりの精神を持ち、常に相手への敬意を忘れずにオリンピックが行われ成功すれば、そのおもてなしこそ日本人としての、誇りになるのだと思います。

「忠恕」という言葉はこのように、ぼくに色々なことを考えさせ、教えてくれました。

ぼくの目標は相手の心を読み動かせる強い剣士になること、将来人のことを思いやれる強い警察官になることです。今はまだ、剣道も未熟で先生から厳しく指導もされますし、迷うこともたくさんあります。相手の気持ちがわからないことも、相手を思いやる気持ちが足りないと感じることもたくさんあります。

だからこそ、先生が教えてくださった「忠恕」という言葉を忘れず、これからの人生のテーマのひとつとして努力していきたいです。

そして、この言葉を教えてくださった剣道の先生に心より感謝し自分の夢に向かっていきたいと思っています。

優 良 賞



視野を広げる

広島市立牛田中学校

1年 ^{おお}大 ^{つぽ}坪 ^り莉 ^こ子

中学校入学にあたって、色々不安な事がありました。その中でも私が一番心配していたのは、『先輩との関わり方』です。

『先輩』は自分にとって初めてできる存在だった、というのもありますが、一番は、上級生と接するのがトラウマだったからです。

そのきっかけは、私が小学校5年生の時に起こった、ある事件です。友達数人で集まって公園で遊んでいると、突然6年生のグループが現れて、公園を占領されてしまいました。それを不満に思った私達は、注意をしようと思い、ある男の子が彼らの方へ向かっていきました。しかし、彼らは注意を受けいれるどころか、逆に私達の方へ怒りを向けてきて、注意をした男の子は暴力をふるわれ、けがをしてしまったのです。結局その事件は、双方の親と警察までがやってくる事態になってしまいました。この出来事から私は、上級生とは少し距離を置いて過ごしてきました。

しかし中学生になり、小学校では人数が多く接する機会の無かった他学年とも、部活や委員会などで関わる事が多くなってきました。私は、どんな風に関わればいいのか、ちゃんとうまくやれるだろうか、と緊張していました。

けれど、実際に話してみると、そんな心配はいりませんでした。私がドキドキしながら部活見学にいくと、

「こんにちほ! よろしくね。」

「自由に見て行ってね。」

「少し体験してみる?」

先輩達はみんな、優しく声をかけてくださいました。私は、とてもホッとしたのと同時に、「そうだ。年上だからと言って、みんながみんないばっていたり、こわい訳ではないよね。」と気づきました。

今は先輩達とも、同じ部活で、目標に向かって頑張っています。もう距離は置いていません。毎日の部活が、とても楽しいです。

この出来事を通して、私は、思いこみだけで物事を判断するのは良くない、という事を学びました。たった一度の出来事で全体を決めつけてしまったら、自分の世界も広がらないし、その視野のせまい考え方で、無意識に他人を傷つけてしまうこともあると思います。

私は初めての事にチャレンジする時、どうしてもおじけづいてしまいます。失敗するかもしれない、こんなのできっこない。そうおそれて、チャレンジすることをずっとさけてきました。しかし、今思えば、それも自分で勝手に、思いこんでいただけでした。できるわけないなんて、まだやってもしないのに、決めつけていただけだったのです。今習っている習い事だって、最初は断固拒否していました。でも今は、どうしてそんなにいやがっていたのか不思議なくらいに、やっていて楽しいし、自分の身のためになっていると思います。なので今後は、チャレンジすることをおそれず、何にでも挑戦していけるように頑張りたいです。

これらのことは、物事を色々な面から客観的に見つめ、視野を広げていく、ということにつながっていると思います。中学生最初に味わったこの出来事をしっかりと胸に刻み、これから生きて行く中で、自分の世界や人間関係を、もっと広げていきたいです。

優 良 賞



言葉の魔法

竹原市立賀茂川中学校

3年 ^{すぎ}杉 ^{やま}山 ^{あおい}葵

「ありがとう」「おめでとう」「ヤバ」「ウザッ」皆さんは、言葉の持つ力を実感したことがありますか。良い言葉は人を幸せにする力がある、悪い言葉は人を傷つける。こんな言葉を、今まで周りの大人、先生や両親から一度は聞いたことがあります。私も何度も聞いてきました。しかし、私がこの言葉の持つ「力」を実感したのは、実は最近になってからでした。

人を幸せにする言葉。私は母の日に、「お母さん、いつもありがとう」と感謝の気持ちを込めて伝えたり、友達の誕生日に「おめでとう」とお祝いの気持ちを伝えたりしています。あたたかい言葉を伝えると、言った相手、母や友達はうれしそうに笑ってくれます。私も友達に言われたときはうれしくなります。このような言葉は、人を幸せにしてくれます。そして、私の周りにはそんなあたたかい言葉があふれています。

しかし、あたたかい言葉しか使わない。そんな生活を送れているわけではありません。私は友達と話をしているときに、怒ってしまうことがあります。それは本当にささいなやり取りです。少しいじられて、いやな気持ちになる。その苛立ちが態度に出てしまう。そんな自分が嫌だなと思ってはいるけれど、止められません。ある日のことです。怒る私を見て、「ヤンキー」「総長」と友達が言いました。「ヤンキー」「総長」言葉のナイフが胸に刺さりました。私はとっさに笑いしました。笑ってごまかすことしか、できませんでした。私は今、傷ついているのに、何で笑っているのだろうと悲しくなりました。きっと、友達は、面白半分で言ったのだと思います。怒っている私に対して、「ヤンキー」「総長」ということで、私の苛立った気持ちを笑いに換えようとしたかったのかもしれない。けれど、私は友達の言葉に傷ついただけでした。

言葉の持つ「力」。からかう気持ちの混じった悪い言葉は、人を傷つける暴力と言っていいような力がある。実感を伴って理解した瞬間でした。

幸い、私の傷は、笑ってごまかせるものでした。けれど、周囲の何気ない言葉に傷つき、無理やり笑い、ごまかすことを繰り返した結果、心の傷が深くなり、自分から死を選ぶ人もいます。そう考えたとき、言葉によるいじめは、暴力よりも怖いものだと思います。暴力で受けた傷は治すことができます。しかし、言葉で受けた心の傷はなかなか治すことができません。目に見えない分、治っていないくて苦しんでいても、周りの人は理解できない難しさがあります。言葉で苦しんでいる人が、たくさんいることに気がつきました。

このようなことは、特別な関係だから起こるわけではありません。言葉の使い方を少し間違えただけで、悪い方向へ向かってしまうことがあるのです。そのことをみんなが理解しなければならぬと思います。たとえ、どんなに仲の良い友達でも、何気ない一言をきっかけに、今まで楽しかった思い出、良い関係が一瞬にして壊れてしまうことがあるのです。その一方で、私の大好きな「あたたかい言葉」、「人を幸せにする言葉」もあります。そういう言葉は魔法を持っている。あたたかさを、幸せを、喜びを運び、人を笑顔にする魔法です。みなさんは言葉の持つ「力」をどのように使いたいですか。私は、相手も「自分も」誰もが幸せな気持ちになれる。そんな言葉を使っていきたいです。

あたたかい言葉を使って、誰もが傷つくことのない明るい世界になるように、言葉の魔法を使っていきたいと思います。まずは私から、魔法を使えるようにしていきます。

優 良 賞



見方を変えよう

福山市立城北中学校

3年 ^{おお}大 ^つ津 ^{たか}貴 ^{ひろ}寛

僕には、旅行好きの父がいます。僕が小さい頃から父は、僕を国内だけでなく、海外までも、様々なところへ連れて行ってくれました。父は、僕にたくさんの経験をさせたかったのだらうと思います。そんな父のおかげで、僕は海外がどんどん好きになっていきました。

そして、将来は、世界中を飛び回る仕事がしたいと、いつしか思うようになりました。世界中に行ける仕事といえば、パイロットや航海士などがすぐに頭に浮かびます。調べてみると、他にも貿易商や旅行業など様々な仕事がありました。しかし、僕は今、外交官になりたいと思っています。

僕が、友達に「外交官になりたい!」と伝えると、多くの友人が「難しそう」「堅苦しそう」と答えます。友人達に人気の「IT社長」や「YouTuber」と違って、その魅力があまり理解されていません。もちろん、僕もこの仕事について調べている途中で、すべてを知っているわけではありません。しかし、僕はこの仕事に就いて、もっと多くの世界を知り、もっと様々な人々と触れ合いたいと思っています。

僕が思う外交官の仕事とは「世界中の人を幸せにする仕事」です。

国境や人種、年齢、性別、障害の有無に関係なく一人一人を大切にすることができる仕事かしたいと思っています。

そう思うきっかけとなったことは、僕が初めて父と離れて一人で海外に行くことになった北京教育交流訪問団に参加したことでした。

僕が初めて中国に行ったときに、マイナス13度という寒い日がありました。初めて見る壮大な天安門の前で僕は感動しながらも寒さに震えていました。同じ見学の仲間達も同じように震えていました。そんな時、側にいた中国人の人達が、中国語で話しかけてくれました。僕は中国語が話せなかったのに、どうしようかと思っていたら、その人達がカイロを渡してくれました。僕はただ、うなずくことしかできませんでした。お礼の一つも言えませんでした。しかし、その人達はずっと笑顔で、手を振り去っていきました。なんて優しい人たちだろう、と僕は感動しました。見ず知らずの、しかも外国の子どもに優しくしてくれるなんて、と嬉しく思いました。

このことは、人によっては、小さな出来事と思われるかもしれませんが、しかし、僕にとっては、今までの僕の考え方を見直す大きなきっかけとなった出来事でした。

この出来事で、「中国人はみんな良い人」と伝えたいわけではありません。「見ず知らずの地で、その土地の人に優しくされ、温かい気持ちになれたこと」が、僕にとって大きな意味がありました。慣れない場所、見ず知らずの人しかいない、そんな状況はこの先海外に行かなくても多くあると思います。

今、学校で過ごしていても、まったく知らない学年もクラスも違う人とすれ違うことは多くあります。そして、その人たちが困っていたら助けたいと思っています。

名前も顔も良く知らない、もう二度と会わない人でも、出会う相手を大切にしていきたいです。さっと、カイロを差し出してくれたあの人達のように、困っている人達にすぐに手を差し伸べられる人になりたいです。そんな風に世界を結んでいけたらいいなと思っています。



才能の有無より人としての成長

三次市立甲奴中学校

3年 ^{ふじ}藤 ^い井 ^お継 ^と音

僕は、「才能」という言葉が嫌いです。「才能」とは、物事をうまくやり遂げる能力のことです。「何でそんなにすぐに上手にできるの。」

「才能かな。」

というような会話をよく耳にします。短時間で物事ができるようになったり、上手くやり遂げたりできるのは、確かに、その人のもつ才能なのかもしれません。

では、才能がない人はどうすればよいのでしょうか。自分も同じように早く、上手くできるようになりたいと思っても、できないという人はたくさんいます。僕も、その一人です。どれだけ頑張っても上手くいかないという時が何度もあります。才能がないからできない、と自分の「可能性」を否定しがちになります。自分がそれをできるようになりたいと思うとき、自分の「可能性」を自分で否定することは、とても辛いことです。

しかし、その辛い現状から抜け出すことができる方法があります。それは、「努力」することです。「努力」とは、ある目的を達成するために、一生懸命努めることです。この努力というのは、才能がある人もない人もできることです。僕は、その物事に対してどれだけ努力したか、どれだけ真剣にしたかということこそ、意味や価値があると思います。また、早くできることよりも時間は掛かっても体得するというのが大事なのではないかと思います。

僕は、ソフトテニス部に所属していますが、バックハンドという打ち方を苦手としていました。うまくいかない時は、先輩や同級生にアドバイスやポイントを聞き、それを意識して反復練習を行っています。そうすることによって少しずつ苦手を克服できるようになりました。

もう一つ、可能性を否定しがちな状況から抜け出す方法として僕が考えるのは、「今の自分」を知ることです。今自分はどこまでできていて、どこからできないのか、自分の中で把握する必要があると思います。そうすることによって、自分にある力がわかり、反対に、自分に不足している力が見えてくれば、その不足している力を伸ばすよう重点的に取り組むことができます。例えば、勉強では、得意教科と苦手教科を理解し、なぜ得意なのか、また、どこがどのように苦手なのかを分析することが大事です。そして、得意教科の学習方法を苦手教科に応用したり工夫したりして取り組むことができます。

才能がある人もない人も、必ず壁に突き当たります。その壁に突き当たったとき、そこにとどまるのか、その壁を越えようとするのかが、その人の生き方を表していると思います。壁を越えようとするならば、その力が自分の可能性をさらに広げてくれるはずです。

僕はこの二つの方法で、日々「才能」と闘っています。「努力」することも「今の自分を知る」ことも過程でしかありません。よい結果が出ることもあれば、結果が出ないこともあります。どのような結果にたどり着くかは分かりません。しかし、そこに向かう過程こそが結果よりも自分にとって大切なものだと思っています。その過程では、困難に向かう苦しさや今の段階から少しでも前に進めた喜びなどさまざまな感情に出会うと思います。また、その過程で、前の自分に無かったものを得ることもあります。その思いがさらに自分を引き上げてくれると思います。

物事に向き合うとき、「才能」というものがあるとかないとか、そのようなことよりも、自分が目指すものに向かって今の自分を知り、努力し続けること、その過程こそが本当の人としての「成長」であり、生きることの尊さや意味であるのだと僕は思います。これからも僕は、そのような態度で、自分の人生をより豊かに歩みたいと思います。

優 良 賞



心

廿日市市立吉和中学校

3年 ^{きむ}金 チュヒ

「心は、どこにあるのでしょうか。」

とたずねられたら、皆さんは、どのように答えられますか。確かにあるのですが、いざ改めて考えると難しくなってきます。でも、心が揺れ動く瞬間を実感することは、たくさんあると思うのです。

まだ、私が韓国の小学校に通っていた5年生の時、私たちの家族は、家の都合で引っ越すことになりました。

転校した新しい学校でいじめを受けたり無視されたりすることはなかったのですが、同じ年頃の女の子たちの話題の中心は、流行りのメイクや人気のドラマばかりでした。そこで、その話題についていけなかった私は、どんなものが流行っているのかを調べ、話の輪の中に入って行こうとしました。でも、もともとそういったことに興味や関心のない私でしたから、長くは続けられませんでした。そのため、状況は変わらず、2学期になった頃には、「来年まで待って来年から頑張ろう。」と思い直し、そのまま、学校では一人で時間を過ごすことが多くなったのです。

ところが、そんなある日のこと、私は、私の生き方を変えるような大きな大きな出来事に出会ったのです。それは、いつもと同じように、休憩時間一人で静かにしていた私に、一人の女の子が話しかけて来たのです。その子は、話のポケットをいろいろと持っていて、ワクワクすること、私の興味あることを次から次へとたくさん話してくれたのです。それまで、こんな経験をしたことはなかったので、びっくりしましたが、気づかないうちに私も自分のことを自然に話しはじめていました。その時、私の心は、温かい光にあふれ、幸せでいっぱいになりました。

この出会いがなかったら、私はずっとあのまま存在感のない静かな女の子でいたことでしょう。その子がくれた一言、あの時、私の心は大きく揺れ、元気が湧いてきたのです。

このことがきっかけになり、私は少しずつ変わることができました。それまでのように、じっとしていないで、自分から発信したり、動いてみたりしてみようと思えるようになったのです。やってみると、新しい自分に出会えたり新しい世界に出会えたりすることがわかってきました。

今でも、自分から話しかけることやみんなの前に出ることは、私には難しいですが、これからは、もっと積極的に声を掛けてみようと思います。もしも、私が送った一言で、誰かの心が動いたら、あの時の私の心が感じた幸せをプレゼントできるならです。

心は、うれしい時も、楽しい時も揺れ動きます。でも、ここで一歩前に進んで、私の行動や言葉で誰かを幸せにできると、私はもっと幸せです。今日ここで、皆さんに私の思いを届けることができました。私の言葉、私の話を聞いて、何かを感じていただけたなら、私の心は幸せです。

この星に生まれて15年。これからたくさんの人や物と出会い、心が揺れ動く一言を、瞬間を大切に成長していきたいです。

優良賞



絶対に無駄じゃない

広島市立伴中学校

3年 ^{しら}白 ^{はま}浜 ^か夏 ^{りん}鈴

眩しいライトに照らされながら、広いステージへと足を踏み出しました。たくさんのお客さんを前に、好きなことを好きなだけ頑張れる環境があることへの嬉しさや、自分を支えてくださる人たちへの感謝など、全てを自信に変えて私はステージに立ちました。私にはコレオグラファーになるという何としてでも達成したい目標があったのです。コレオグラファーとは、ダンスの振り付けをする人のことです。

小学2年生の頃から続けてきたダンスを将来の夢に選んだのは自分の好きなことを職にすることにとっても魅力を感じたからです。妹がするから自分もという軽い気持ちで始めたダンスだったけれど、7年間、ただただひたすらがむしゃらになって、全力で突き進んでいくうちに、自分の中で全ての「支え」となるとても大切なものへと変わっていきました。

朝4時に起きて練習をし、学校から帰ってきたら練習をし、休日も自分で時間を作っては練習するの繰り返しで、練習尽くしの毎日でした。けれど、友達と遊ぶことよりも、テレビを見ることよりも、ご飯を食べることよりも、とにかくダンスがしたくて、誰にも負けたくない、何が何でも一番になりたいという強い気持ちがあったからこそできたことだと思います。そして何よりも、家族みんなの応援があったからこそ挑戦し続けられたのだと思います。そして次第に、ダンスがしたいから課題を丁寧にしよう、ダンスがしたいからテスト勉強も頑張ろう、ダンスがしたいから家の手伝いをもっとしようというように、自分の好きなことをさせてもらっているのだから、苦手なことや嫌なことはそれ以上に頑張ろうと考えるようになりました。努力がなかなか結果に現れなくて、悔しい思いをしたことも何度もあったけれど、その度に、足りていないことは何かを見つけ、納得のいくまで追求し続けることで、壁を打ちくだいてきました。

そんな私でしたが、中学2年生の冬。ダンスに一度区切りをつけると決断しました。あんなに強く思っていた「コレオグラファーになりたい」という気持ちが変わってしまったのです。これまで私が家族にかけてきたたくさんの負担や、家族みんなの困った顔を想像すると、申し訳なさで胸が押しつぶされそうになりました。父と母に意思を伝えると、「これまでやってきたことは全部無駄になる」と言われました。しかし、私はそうは思いません。確かに、技術的な面で活かせる機会はないかもしれないけれど、それよりもっともっと大切なことをたくさん学んだのです。世代を超えたチームメイトとの時間は、仲間と高め合うことの大切さを教えてくれました。努力をした分だけ、時間がかかっても結果につながってきた経験から、努力の積み重ねの大切さを理解しました。自分と向き合い、努力を重ねることこそが自信を生み、失敗したり、悩んだりした経験こそが私を成長させてくれました。これらは全て私という人間がダンスに対して本気になれたからこそ、学び、成長できたのです。

父に、「全部無駄になる」と言われたとき、私は「無駄にはしない」と言い切りました。これまでの7年間、私はダンスと共に人間として成長してこれたからです。ダンスから完全に離れた今年の夏。私は新しいことに挑戦できました。一つひとつの事に向き合いながら感じたことは、自分の良さを生かせる場所は、自分次第でたくさんあるということです。これからも私は目の前にあることに真剣に向き合うことで、成長していきたいと思います。7年間、ダンスに打ち込む私を支えてくれた家族への感謝の気持ちをこれからの私の成長していく姿でも伝えていきたいです。これまでの日々も、これからの日々も「絶対に無駄じゃない」ということを証明していきたいです。



第三者と共に

広島市立江波中学校

1年 三浦 桃奈

最近、直接会って、あるいはSNSを使つてのいじめや誹謗中傷^{ひぼう}で、深く心が傷ついてしまう人、自ら命を絶ってしまう人のニュースをよく耳にするようになりました。

私にもいじめに遭っていた時期があり、重さは違っても辛さは良く分かるので、このようなニュースを耳にする度、辛い思いをする人が減らない事に心が痛くなります。

私がいじめに遭っていたのは、小学2、3年生の頃です。足を踏まれたり、グループの中で仲間外れにされたりしていました。幸い、同じクラスに仲の良い友達がいた為、学校に行く楽しみを見つけられて、クラス替えまで乗り切る事ができました。ですが、それでも長い間滞在する学校に嫌な事があると、ずっと沈んだ気持ちで過ごす事になり、辛かった事を今でもよく覚えています。教室にいる時、いじめをする人に話しかけられる事がとても怖く、自分の居場所の一つでいじめがある辛さも、身を持って理解しました。

もし、この時いじめの規模が大きく、味方になってくれる、安心して過ごせる人が居なかったら、完全に孤立していたら、想像もつかない程苦しみ、心の傷は深かったでしょう。

また、SNSでのいじめも、大きな居場所である家の中でもおびえる事になってしまい、重さによっては生活や健康にまで影響をおよぼす事になっていたと思います。このような悪質ないじめに実際に遭っている人がいると思うと、改めてこれは許してはいけない事だと強く感じました。

一方、自分自身でも注意しなければならないと思った事もあります。中学校に入ってから、一部の人の事を「うざい」、「気持ち悪い」と、会話の中で言っている事がありました。そのような時、自分達が言っている悪口を言っている、いじめに発展するかもしれない事をしているという自覚は無く、本人には軽い会話のつもりでも、相手を傷つけてしまう事があると気付きました。これに関しては、客観的な視点で会話を見つめる事が一番だと思います。相手を傷つける事を言っていないか、自分で見つめられるようにすれば、その気がなかったいじめについては減らしていけるのではないかと思います。

いじめ全体の話に戻ります。意図的ないじめは、先生や大人の人に相談する事が対処法の一つですが、それで話し合いができたとしても、そのまま解決はしない場合があります。また、そもそも学校内で相談する事が見つかってしまうとエスカレートしてしまうのではないかと、という恐怖心から難しい人もいます。そのような場合、一つの手段として、いじめ専用の窓口で電話をする、という方法がありました。文部科学省の「24時間子供SOSダイヤル」など、色々な窓口があり、とく名で相談できる所もあります。電話をしてからの流れが書いてあるポスターやサイトはあまり見かけないので、全体の流れがより明確になり、気軽に相談できるようになってほしいと思いました。

SNSの場合、いつ相手を傷つけてしまうか分からないので、私は母に文をチェックしてもらうようにしています。だれかに正しい表現を使っているか確認してもらう事も、自分から相手を守る手段となります。

いくつかいじめを防止する為の手段を挙げましたが、多くに共通するのは、第三者の介入です。友達だけでの会話も楽しいものですが、いじめやトラブルが起きてしまったら、だれかの手を借りて、お互いが出来事を見つめられる事が、最もスムーズな解決法ではないかと、私は思います。

**審査員長**

広島市教育委員会教育センター主事・比治山大学非常勤講師

和田 晋

本日の審査員を代表して、感想や気づいたことなどをお伝えいたします。

本日、この大会が、感染予防対策を十分に講じられた上で実施できたことに、主催者をはじめ、ご支援くださった多くの皆さまに心から感謝申し上げ、心から敬意を表したいと思います。ありがとうございました。コロナ禍の状況下ですが、大変意義深い大会になり、審査員としてもうれしく思っております。

本日は1,000人を超える応募の中から、予備審査を通過した皆さんの発表をお聞きいたしました。この発表に至ったことに、まずは誇りを持っていただきたいと思います。審査の基準発表をされた三浦桃奈さん、そして選ばれた15名の皆さん、今はどのような心境でしょうか。きっと発表をやりきった達成感や満足感に満ちあふれているのではないかと想像しています。誠に立派な発表ぶりであり、心から拍手を送りたいと思います。本当に素晴らしい発表をありがとうございました。

本大会は、コロナ感染予防のために休校措置などがあり、いろいろな面で十分な準備ができなかったことと思います。学校の先生方からも準備が大変であったことをお聞きしております。生徒の皆さんはもちろんですが、それを支え続けられたご家族の皆さまや関係の皆さま、多くの制約がある中での取り組みであり、心を痛められた場面も多くあったことと想像いたします。

そのような状況の中で、本日の発表は、その制約を感じさせない立派なものでありました。全体の発表を通して、よくぞこのような立派な発表になったと審査員からも声が上がっております。

内容やテーマは人によってさまざまであり、すばらしい個性を感じさせるものでありました。特に自分の体験を通じた実感や考えが説得力をもって伝えられていたと思います。自分個人では理解していても、相手にうまく伝えるには、内容面において、特にその材料や論理の展開に工夫が必要になります。

さらに、話し方による表現力によって、その伝わり方は大きく異なってきます。人にはさまざまな表情があるように、声にも表情があります。発表者の思いが詰まった言葉は、穏やかな表現であっても相手に強い印象を与えます。論旨にふさわしく、自分らしい表現が、最も自然で効果的に他者に伝わると思います。

本審査は、皆さんの発表を論旨や論理展開の面と、話し方を中心とした表現の面の両方から行わせていただきました。印象に残った表現や課題点について、審査会で話題になったことを率直にお伝えいたします。

先ほど申し上げましたように、15人の審査対象の発表が、全体的に甲乙つけがたく、よく考えられた発表になっていたと思います。逆に申し上げますと、審査員は大変苦勞いたしました。何よりも、その制約ある取り組みの中で、皆さんの発表が日常からよく考えられた発表であったこと、特に身近な体験や社会に対する疑問など、自分の体験をくぐらせて声高にアピールするのではなく、自然な話し方の中で相手にしっかりと伝えたこと、これは15人の皆さんに共通しておりました。素晴らしいことと思います。

ただ逆に課題点を申し上げますと、具体的な事実やエピソードを題材にし、それを具体的にどのように論理展開に生かしていくかという論理の組み立てについては、もう少し工夫されたら良かったのではないかとという惜しむ声も審査員からは聞かれました。

特に、審査の結果発表前ですので、詳細は申し上げませんが、私のほうで強く感じたことを申し上げますと、発表の中に歌や朗読を交えた発表がありました。そのこと自体が素晴らしいわけではないのです。その発表の中で、論理的に自然な流れの中で、それを有効に交えて相手に伝えた点こそが大切なのです。その点において非常に効果的な発表であったと思いますし、学ぶべき点があったと思います。

逆に、小さな点ですけれども、私が気になった点を、皆さんの今後に生かしてほしいと願い、アドバイスをさせていただきます。まずはマイクの距離です。マイクの距離が近すぎた人、遠く離れた人など、人によって声の性質が全く異なって聞こえました。そのマイクをどのように生かして使用するかということの工夫がもう少しなされたら、より効果的な発表になったのではないかと思います。

もう一つは、原稿に目を落とすのではなく、会場にしっかり目力を生かして発表していただき、上手に間をとって話をするなどの工夫をされたら、もっと素晴らしい発表になったことと思います。今回の発表に限らず、生徒会活動とか学級活動の場面で、さらに生かされるのではないかと期待しています。

身振りや手振りを使われた方が、たくさんいらっしゃいました。これも度を過ぎたものではなくて、自然に見て取れましたけれども、やはり発表の内容に即した自然な身振り・手振りということを心がけるべきだと思います。そういう点においては、自然な話し方で、その身振りや手振りも有効に生かしていくという可能性を、今回の発表から学んでいただきたいと思います。

以上、審査会の中で出た意見を皆さんにお伝えいたしましたけれども、いずれにしましても、このコロナ禍の多くの制約がある中で、堂々と発表された15名の皆さん、そして最初に1年生でありながら基準発表を立派にしてくださった方を含めた16名の発表者の皆さんに、私は心から敬意を表して拍手を送りたいと思います。

皆さんには本日のこの素晴らしい発表を起点にして、これからの皆さんの生き方、学校生活の中や、社会生活において、本日の発表をさらに生かしていただけるように祈念します。皆さんの今後の生き方に心から期待をしつつ講評を終えたいと思います。ありがとうございました。

「少年の主張」・中学生話し方大会2020

第42回「少年の主張」広島県大会開催要領 第54回中学生話し方広島大会開催要領

- 1 趣 旨 国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子供たちには、論理的に物事を考える力、自分の主張を正しく伝える力、広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につけることが求められている。
この大会は、中学生が話すことによって伝える力を育み、学び合う機会となるとともに、意見発表を通して、中学生への理解と認識を深めてもらうことをねらいとする。
- 2 対 象 広島県内の中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議、広島県中学校話し方連盟、独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 4 協 賛 国際ソロプチミスト広島、広島清流ライオンズクラブ、公益財団法人広島青少年文化センター
- 5 後 援 広島県、広島県教育委員会、広島市、広島市教育委員会、広島県公立中学校長会、広島県私立中学高等学校協会校長会、中国新聞社、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島
- 6 開催日時 令和2年9月5日（土）10：00～14：00
- 7 日 程 9：30～10：00 受付
10：00～10：15 開会行事
10：15～12：00 発表
12：00～13：00 出場者記念撮影、昼食
「少年の主張」全国大会のDVD上映
13：00～14：00 審査発表、表彰、閉会行事
- 8 開催場所 広島県社会福祉会館 2階 講堂（広島市南区比治山本町12-2）

（注）新型コロナウイルス感染症対策のため、発表生徒1人につき引率者は1人とする。

- 9 発表内容 次のA、B、Cの中から、日ごろ心に思っていること、考えたことや感銘を受けたことなどを、自由にユニークな発想と、飾り気のない言葉でまとめたもの。
なお、未発表、自作のものに限ります。
また、商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにしてください。
A 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
B 家庭、学校生活、社会（地域活動）または、身の回りや友だちとの関わりなど。

C テレビや新聞などで報道されている社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

- 10 発 表 小道具は、使用しない。
発表時間は5分程度（目安として400字詰め原稿用紙4枚程度）
ただし、6分を超えるものは審査対象外となりますので、ご注意ください。
- 11 応募方法 申込書に原稿を添えて、中学校長を経由して提出する（原稿は返却しない）。
ただし、市町、青少年育成市町民会議等の類似の大会で入賞した中学生の応募も可とする。
この場合、市町等においてその旨を付記して、市町等から提出するものとする。
原稿は原則400字詰め原稿用紙（A4判縦書き）を使用すること。（学校等で使用されるB4判縦書きも可とする。）
- 12 申込締切 令和2年7月31日（金）必着
- 13 事前選考 提出された原稿を主催者において審査し、大会出場者を決定する。なお、大会の出場資格を得た者については、各中学校長等あてに8月中旬に通知する。
- 14 審 査 審査は、学識経験者、マスコミ関係者、関係行政機関の職員、（公社）青少年育成広島県民会議及び広島県中学校話し方連盟並びに協賛団体の代表者によって構成する審査会で行う。
- 15 表 彰 広島県知事賞、（公社）青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞（各1名）、優秀賞（若干名）及び優良賞を選考し賞状を贈る。
- 16 副 賞 この大会で、広島県知事賞、（公社）青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞を受賞した5名には、副賞として海外研修が（公財）広島青少年文化センターから授与される。
時 期：令和3年夏休期間の5日間（予定）
訪問先：大韓民国（予定）
- 17 そ の 他 この大会で、広島県知事賞を受賞した者を、独立行政法人国立青少年教育振興機構主催の「少年の主張」全国大会（11月8日（日）東京で開催）への出場候補者として推薦する。
- 18 問い合わせ先 公益社団法人青少年育成広島県民会議「少年の主張」係
申込み先 〒730-8511 広島市中区基町10-52（広島県環境県民局県民活動課内）
電 話 082-513-2742
ファクス 082-511-2173

審査員及び審査基準

1 審査員

審査員長	和田 晋	広島市教育委員会教育センター主事・比治山大学非常勤講師
審査員	江種 則 貴	公益社団法人青少年育成広島県民会議副会長
//	清川 徹	元NHKアナウンサー
//	谷崎 栄 子	広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
//	田原 直 樹	中国新聞社論説委員
//	樽谷 和 子	公益財団法人広島青少年文化センター 理事
//	西村 一 伸	広島清流ライオンズクラブ会長
//	藤本 恵	広島県中学校話し方連盟顧問
//	堀江 嘉 子	国際ソロプチミスト広島会長
//	宮尾 茂	広島県環境県民局県民活動課長
//	与座 淳	広島市教育委員会指導第二課指導主事

(五十音順, 敬称略)

2 審査の基準

概ね次の点を採点ポイントとし、内容、論旨、表現、態度等総合的に評価を行う。

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。
(柔軟な発想に基づく意見や提言、未来への希望や夢・メッセージ、新しい情報や視点など)
- ② 具体的な内容とともに、一般性・社会性の広がりがあるか。
- ③ 提案や提言を実現・実践する意欲や積極性が感じられるか。
- ④ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。
- ⑤ 発表に熱意が感じられ、迫力があるか。
- ⑥ 主張の内容が感銘と共感を与えているか。
- ⑦ 説得力のある話し方であるか。
- ⑧ 発表の早さや間のおき方、姿勢が適当であるか。

内閣総理大臣賞 受賞作品

言葉を紡ぐ

鹿児島県霧島市立横川中学校

3年 いけ しま おと わ
池 島 音 羽

「音羽ってさ、最近調子乗ってるよね。偉そうにさ。まじ、ウザい。」

それは、突然のことだった。冬が、静かに足音を忍ばせながら近づいてきたあの日。放課後の教室に冷たい風が吹き抜けた。息ができなかった。ただ、茫然と立ち尽くすしか。心の奥を鋭い刃物でえぐられる。無理に笑おうとすると、頬が引きつった。私、今、どんな顔してるんだろう。真っ白な世界にただ一人取り残された。頭の中に浮かぶのは、疑問だらけ。ついさっきまで、仲良く話してたよね。どうして。どうして私が。私、そんなに調子に乗ってたかな…何か、悪いことしたかな。

その日からすべてが変わった。ひそひそ話をする友人の姿を見ては、その場から逃げ出した。怖かったから。きっと自分のことをいってるんだろうって思った。そそくさと教室を出る私の背中に浴びせられた言葉。「ほんと何なのけ。ウザいんだけど。」

誰かに相談したくてもできなかった。相談したら、また何かいわれるんじゃないかとおびえる日々。ベッドに横たわって意味もなく、天井を眺めた。頭の中の何かがブツッと切れた。気づいたら側に母がいて、私はすべてを打ち明けた。瞬きもせずに私の話を聞く大きな瞳に泣きじゃくる私の姿が映っていた。「今まで辛かったね。あんたはすぐに一人で抱え込む癖があるから、誰にも相談できなかったんでしょ。今、お母さんに言った気持ちをほんの少しでもいいから相手の子に伝えてごらん。何も変わらなかったら、また、お母さんのところに戻ってきなさい。」夕飯に出されたお味噌汁を一口すすると、心の中に溜まっていた何かがふっと抜けていった。久しぶりに感じたこの暖かさ。でも、どうやって伝えたらいいの。直接、言える勇気なんて私にはない。だったら、どんな形であれ、自分の気持ちを伝えなきゃ。だって、私には帰って来られる場所があるんだから。

その夜、私はスマホを握りしめた。LINEを開き、ずいぶんと更新されていない画面を見つめ、自分の思いをしたためた。何度も何度も文字を打ち直した。私が悪いのなら何がいけなかったのかを教えてほしいということ。陰で言われるのはとても辛いということ…。送信ボタンを押す手が震え、どれだけの時間が経っただろう。これがきっかけで何かが変わるというんだろうか。

翌朝、既読のサインは付いたが、返信はなかった。学校についてもいつもと変わらない景色がそこにあった。「ごめん。」背中越しに聞こえた言葉。それは突然だった。伝わったんだ。少しずつ、私の世界に色が戻ってきた。「何か、気に入らないことがあったら、教えてね。」

途切れ途切れの私の言葉。

スティーブ・ジョブズ氏は「想いを形にして、想いを言葉にして、想いを伝達する。いくら素晴らしいものを作っても伝えなければいけないのと同じ。」と語る。SNSは諸刃の剣。時に人を傷つけるが、人を救うことだってある。世の中は情報化社会だ。これから先も、私たちは情報の渦の中で生き抜くことになる。何を学び、どんな力を身につけなければならないか。今、文科省が勧める「GIGAスクール構想。」この目的は、一人一台のコンピューターと、一人一人の個性に合わせた学習の実現だと言われている。多くの情報を活用する力が私たちに求められているのだ。だが、その基盤にあるものは何だろう。どれだけ、情報化の波が押しよせようとも、人間が人間としてあるためには、想いを言葉に紡ぎ、相手に伝えることではないか。そして、人と人とがつながることで、新しい時代を築けるのではないか。帰宅した私を母が笑顔で迎えた。「何か食べたいものある。」私は迷わず答えた。「お味噌汁。飲みたい。」

「家庭の日」に関する作文・図画

特 選

海と心の祖父

呉市立呉中央中学校

1年 ^{みや}宮 ^{おか}岡 ^{はや}隼 ^と都

「なんで捨てるんかの。」

祖父は、捨てられた魚釣りの仕掛けを見つけると、手際よく片付けていく。魔術師みたいだ。魚釣りに行くと必ず祖父がやることだ。

僕は、祖父の影響で、魚釣りが大好きだ。初めて魚釣りに連れて行ってくれた時の事は、今でも覚えている。海に着いて、嬉しさと早く釣りをしたい気持ちで走り出した時に、大きな手で、肩をつかまれた。

「走ったらいけん。海に落ちるぞ。」

と怒られた。堤防へ行くと、釣り糸が落ちていた。触ろうとすると、

「針が刺さって怪我をするから危ない。」

と怒られた。

えさの付け方、竿の投げ方、タイミングなど魚釣りのやり方だけでなく、魚釣りのルール、釣り人の自覚を教えてくれた。

だから、僕は、釣りに行く時は必ずゴミ袋を持っていく習慣がついた。(来た時よりもきれいにして帰る。)

祖父は、少し厳しいところもあったけど、潮風に吹かれて竿先を見ながら、家族の事や学校の事など、たくさん話をした。魚が釣れた時は一緒に喜んでくれた。

祖父は、12年前に胃がんになった。数年前に再発し、抗がん剤治療をしていた。会うたびに少し痩せていったけれど、元気そうに見えた。だから、緊急入院したと聞いた時はとても驚いた。子供は面会謝絶だったので、手紙を書いた。普段、手紙を書かないから、すごく時間がかかったけれど、思いを込めて書いた。後で母から祖父が喜んでいと聞いた時は嬉しかった。

数日後、容態が急変した。家族と病室に行った。痩せて一回り小さくなった祖父。目を閉じたままで、声をかけると薄く目が開いてすぐに閉じた。手を握ると、痩せ細った小さな手に驚いた。あの力強い手で握り返してほしかった。胸が締め付けられて、泣きそうになった。でも、泣いたら祖父が悲しむと思って歯をくいしばって我慢した。

次の日、祖父が亡くなった。初めて身近な人が亡くなった。泣いている人もいたけれど、僕は涙が出なかった。優しい顔で寝ているように見え、亡くなった実感がなかったからかもしれない。

葬式の後、車窓から海が見えた。窓を開けると、潮風の匂いがした。祖父といった釣りの思い出が、連写で駆け巡って涙が出てきた。あふれ出て止まらなかった。

祖父が亡くなり10ヶ月。いつもの海へ行った。波はおだやかで、潮風が吹いていた。ふと見ると、魚釣りの仕掛けが捨てられていた。僕はそれを拾いながら、

「なんで捨てるんかね。」

と祖父と同じことを言っていた。

一緒に魚釣りをしてくれる祖父はいない。けれど、僕の心の中でずっと生きている。

呉市立音戸中学校

3年 きり たに ゆ り
桐 谷 友 里

「ただいま。」

妹や弟、母とも違う。太くしっかりとした声が玄関から聞こえる。

「おかえり、父さん。」

と元気よく、少し早口で言う5歳の弟が我先にと玄関に向かう。この家を支える、一家の大黒柱、父親のもとに。

私の父は海上自衛隊に勤めている。一回海に出ると半年近く仕事なので、あまり家に帰ることとはない。しかしこの日、半年振りに父の休暇がやってきた。皆の笑顔が増えた気がする。私達が手伝っていてもなお忙しい母に余裕が出来た気がする。父の存在一つで家庭がこんなに明るくなるものかと毎度毎度驚いてしまう。

「ねえ、遊びに行こう。遠くに行こう。あっ、おもちゃでも遊ぼう。早く！」

弟が疲れている父の腕にしがみつく。

「明日明日。今日はゆっくりさせたげて。」

母が優しく、お願い！とふてくされた弟を慰める。父が帰って来たのは、夜だったので、私達は夜が過ぎるのを待った。

次の朝、いつも起こされないと起きない弟がリビングにいる。小学4年生の妹はなんと朝から宿題に取り組んでいる。すると母が、「父さんと遊びに行きたいけん、早く起こしてって言われて。でも、やっぱり眠そう。」

母が苦笑する。当の本人はもともとトーストを食べている。父が部屋から来て、
「今日、皆で山に登らん？ ちょっと遠めの散歩。楽しそうじゃない？」

最近あまり外に出ていないと思う。きっと風が心地良いだろう。いつもよりずっと速く今日の宿題を終わらせる。弟は、楽しそうに帽子、虫取り網、水筒などの準備をしている。よほど楽しらしく、鼻歌が聞こえる。

勉強道具を片づけ、キュッと帽子をかぶる。靴を履き、つま先をタイルの床にぶつける。妹は水筒、弟は虫取り網を持ち、いざ出陣と言わんばかりに歩き出す。

登る途中、学校や家であったことを話す。私が話すときは「友達がね」から始める。以前その子について父に話した時からはずいぶん月日がたっているので、無理に友達の名前を覚えなくても良いと思っているからだ。

「もしかして、〇〇ちゃん？ 合っとる？」

そう言って、覚えていてくれる。そういうところが家族皆に好かれる一つなのだと思う。

父は自分達のささいなことまで覚えてくれる。家族を大切にしていることが分かる。そんな父だから帰って来る日が特別で、皆は父が大好きなのだと思う。

休暇が終わると、父は日が出る前に仕事に向かう。私は滅多に言えない「いってらっしゃい」を今日こそ、言おうと思う。

広島市立宇品中学校

3年 ^{みやもと}宮 本^{ゆう}優

僕には「おばあちゃん」と呼んでいる人が3人います。1人は父方の祖母、1人は母方の祖母、そしてもう1人が母方の祖母の母つまり曾祖母です。家族の中では曾祖母のことを「大きいおばあちゃん」と呼んでいます。「大きい」というのは、決して身長が高いわけでも、体格がいいわけでもありません。どちらかといえば、僕から見ると家族、親戚の中で一番小さいです。そんな曾祖母を「大きいおばあちゃん」と呼ぶのは、親戚の中で年齢が一番「大きい」ということからです。曾祖母の年齢は99歳。あと半年で100歳になります。耳は遠いし、足腰が弱っているのですべての動きがスローモーションの映像のようにゆっくりですが、祖母や祖母の妹にお世話してもらいながら、今も元気に過ごしています。また、おしゃべりが得意なほうではなく、どちらかというと「うん。うん。」と話を聞くのが好きなほうなので、僕は曾祖母の昔の話を直接聞いたことはあまりありません。しかし、母や祖母から、この99年の間にいろいろなことがあったと聞いています。

僕は今、社会の授業で第二次世界大戦の終結まで習い終えています。曾祖母が生まれたのは大正10年、1921年です。歴史の教科書を見ると、この頃、国際連盟が発足したり、ワシントン会議が開かれたり、ソ連が成立したりと、歴史的に重要なことがたくさん起きていました。そして、今の僕と同じ14歳頃（昭和10年頃）は、日本が国際連盟から脱退し、二・二六事件など軍部が力を強めていった時代です。また、今はもう亡くなっていますが、曾祖母の夫、つまり僕の曾祖父は、若い頃陸軍の獣医に所属していたため、いろいろな戦争を経験していたようです。そして、曾祖父が曾祖母と結婚してからは、満州での暮らしが始まったそうです。曾祖父は、日記を書く人だったので、その当時の戦地の様子や一緒にその軍にいた人との何気ない会話、食事の話、偶然戦地で同郷の人に会ったことなどが記されてありました。戦地という以外は僕たちの日常とあまり変わらない日記でした。

しかし、満州で終戦を迎えると、曾祖父は曾祖母と満州で生まれた子ども2人を残したまま、シベリアへ抑留させられていました。その間に長男は満州で亡くなり、曾祖母と次男は終戦の翌年、日本に帰ってくることができました。そして、その1年半後、曾祖父は何とか無事に日本に帰り、再び家族で過ごせるようになったそうです。

曾祖父母が経験したこの話は、まさに今僕が歴史の授業で習っている話です。教科書の活字の中のことで、想像すらできませんでした。しかし曾祖母はそれを体験している、そして戦後何もない状態から曾祖父母たちが新しい日本をつくってくれたおかげで、今の僕たちがいるんだと思うと、感謝と尊敬の気持ちを持って接していかなければいけないと思いました。

時々曾祖母に会いに行くと、行く度に「優ちゃん大きくなったねえ。」と目を細めて、しわくちゃの笑顔で言ってくれます。そして、学校であったこと、頑張っていることを報告すると、すごく喜んでほめてくれます。帰り際には、「頑張ってるね。」としわしわの手で握手してくれます。今まで苦労しながら頑張って生きてきた力強くも優しい手です。僕にとって1人しかいない曾祖母、ずっと元気でもっともっと長生きしてほしいです。

東広島市立龍王小学校

2年 ^{いま}今 ^い井 ^{れおな}怜央奈

わたしには4人のおじいちゃんとおばあちゃんがいます。今年の4月に、ひいおばあちゃんがなくなりました。だから、おかあさんのおじいちゃんとおばあちゃんはいなくなりました。おとうさんのおじいちゃんとおばあちゃんは、わたしが生まれる前になくなっていて、だれにも会えませんでした。

今日は、ひいおばあちゃんのおはかにまいりにいきました。はかいしのよこには、会ったことのない、ひいおじいちゃんや、知らない人の名前がたくさんかいてありました。おかあさんは、「れおなちゃん、おじいちゃんとおばあちゃんが4人いて、みんなげん気でかわいがってくれて良かったね。」

と言いました。おとうさんとおかあさんは、会ったことのないおじいちゃんとおばあちゃんがいるらしいです。わたしは、おじいちゃんとおばあちゃんが大好きなので、ちょっとそうぞうができません。

こうべのおじいちゃんは、まい月おこづかいをくれます。お家は、いつもテレビがついていてうらやましいです。わたしには、
「となりのへやですきなばん組を見ろ。」

と言います。おばあちゃんは、りょうりとさいほうがとくいで、いつもごはんをたくさん作ります。とくに、グラタンがおいしいです。コロナがはやっているので、いろんなマスクも作ってくれます。

ひろしまのおじいちゃんは、体いくの先生なので足が速いらしいです。でも、見たことはありません。おばあちゃんは、本とおひるねとおでかけがすきです。車でいろんなところへつれていって来て、わたしをよろこばせてくれます。

今まで知らない人だったのに、おとうさんとおかあさんがけっこんして、みんながしんせきになって、ふしぎだなと思いました。わたしも、しょうらいだれかとけっこんして、家ぞくになります。かっこよくて、すぐしごとをやめない人で、子どもがすきな人と、けっこんしたいです。そして、子どもができたなら、かわいいふくをたくさんかってあげて、ゆうえんちやあそびにつれていってあげます。わたしがみんなに大せつにされているので、同じように、大せつにそだててあげたいです。

それから、今は、おじいちゃんとおばあちゃんに、やさしくしたいです。わたしが、にがお絵や手紙をかくと、すごくよろこんでくれます。

「上手やね。」

とほめられると、うれしいです。もうすぐ、こうべのおじいちゃんのたん生日なので、サプライズをかんがえ中です。びっくりしてくれるとうれしいです。

わたしは、4人のおじいちゃんとおばあちゃんのまごでしあわせです。

東広島市立三ツ城小学校

5年 ^え江 ^{ぐち}口 ^{ゆい}結 ^な菜

ある日の昼、みんなでドラマを見ている時、私は、主人公を見て、ポツリとつぶやいた。

「この人、よくこんなに人の良いところを言えるよね。」

そしたら、姉が、

「確かに。この子の良いところなんて、一つもないじゃん。」

と言って、妹を見てニヤッと笑った。

その日の夕方、姉の言葉を思い出した私は、宿題をする手が止まった。本当に、妹の良いところは一つもないのだろうか。妹は、小さなことでもすぐにおこるし、小2とは思えないほどこわがりだ。でも、学校の宿題や家事の手伝いはすすんでしている。

それに比べて、姉は、ゲームばかりしていて、家事なんて全くしない。そう考えると、良いところが一つもないのは姉かもしれない。でも、毎日できあがったご飯をテーブルに運んだり、買い物したあとの荷物をさりげなく持ったりしているのは姉だ。もしかしたら、私の知らないところで、何かしてくれているのかもしれない。そう思うと、私は少し姉のことをほこりに感じた。

では、両親はどうだろう。いつも仕事をしていて、死んだように帰宅する父と、宿題しなさい、だらだらしない、とおこってばかりの母にも良いところはあるのだろうか。それはすぐに、答えを見つけることができた。両親の良いところなんて、星の数ほどあるのだ。父は、いつも家族のために仕事をがんばってくれているし、休日にはプールや公園に連れて行ってくれる。家事の手伝いもしている。母は、家事全ぱん、私たちの送りむかえや仕事もしている。家族の中で一番家族のために動いてくれているのは、母かもしれない。

その日の夜、私は夕飯を食べるため、リビングに行った。テーブルの上には、たくさんの料理がならべられていた。

そこで私は、大事なことに気づいた。これらがあり、食べられるのは、家族みんなのおかげだ。父が洗った皿に、母が作った料理をのせ、それを妹がかたづけたテーブルへ、姉が食事を運ぶ。そして、私がエアコンをつけたり、風向きを変えたりして、気持ちよい空間をつくる。それぞれ、長所を生かして短所をカバーし合ってできた夕飯の時間なのだ。家族全員の力を合わせてできた夕飯をみんなで食べよう。妹のかけ声に合わせて、声をそろえて言った。

「いただきます。」

家族の良いところを再発見できたこの日の夕飯は、いつもより少しおいしく感じた。

広島市立楠那小学校

5年 ^{おお}大 ^{さか}坂 ^{しゅう}柊 ^ま真

ぼくの家族を一言でいうと「大型家族。」だ。なぜ大型家族かという、まず身長だ。みんなの身長を紹介する。お父さん（41才）身長176cm。お母さん（39才）身長170cm。ぼく（小学5年生）身長162cm。妹（小学2年生）身長136cm。妹（幼稚園年中）108cmだ。これは、全員がその年の平さん身長をこえているらしい。

次に食べる量だ。わが家では夕飯だけで4合の米を消費しているらしい。みんなに聞いたことはないがいつもそのことを言うと、必ずとっていいほどおどろかれる。これから妹たちも成長期になったことを考えると家のエンゲル係数が心配になってくる。

そんな大型家族だがわが家にはお父さんからの家訓がある。それは、
「体だけでなく心も大きく（大型に）なれ。」

と言うことだ。そこでぼくは考えてみた。心が大型になるというのはどういうことなんだろう。例えばえんりょせずにけんかができることや、だれにでもやさしくせつすることができるとか、うそをつかないとか信らいてきるとかがうかんできた。辞書で調べてみると「大らかな」、「どりょうが広い」、「かん容な」という意味がでてきた。でも、やさしいことが大切だからと言ってなんでも人の言いなりになったり、自分の考えをがまんするのはちがうと思った。みんな個性や性格があって、考えや意見がちがうのは当たり前だ。だから、自分の意見を伝える事も必要だけど、それ以上に相手の思いを聞くことが大切なんじゃないかと感じた。それをお父さんに話してみたら、

「柊真の言ったこともとても大切だと思うよ。でも答えをみつけずに、いつも人の気持ちを考えながら過ごしていく事も大切なんじゃないかな。」

と言っていた。

ぼくはお父さんの言葉と家訓のおかげで、どれだけ心が大切かということに気がついた。

今はまだ短気な所があったり、人の顔色を見ながら行動してしまう事が多いので、今後は人の気持ちを考えながら行動できる、心が大型人間になるための努力をしていきたいです。

庄原市立庄原中学校

1年 ^{あま}天 ^の野 ^か栞 ^な水

私は、父と母が大好きです。でも、母に直接、この「大好き」という気持ちを伝えることはできません。なぜなら、母は天国にいるからです。でも、父をはじめとしたたくさんの人に私は育てられました。

これは、私に『人生』という幸せな日々をあたえてくれた父と母についてのお話です。

私の母は、24歳のとき、胃がんで亡くなりました。私は10ヵ月の赤ちゃんでした。それから私は、父や祖父母など、周りの人に支えられて成長しました。

時々、家族や親戚が、生前の母について話してくれます。その中でも、母の姉、つまり私のおばが話してくれたことが、ずっと心に残っています。それは、
「栞水が女の子って分かったとき、すっごく喜んどったんよ。『一緒に服とか買いに行ったりするのが楽しみだ。』ってね。」

というものでした。

私は、それを聞いたとき、すごくうれしい気持ちになりました。母にとって私は、本当に大切な存在だったんだ、と思ったからです。

しかし同時に、一緒に買い物に行ったりできないさみしさも感じました。母と、
「どの服がいい？」
「これ可愛いね。」

と話せたら、どんなに楽しかったことか。死などおとすれないでほしい、と強く思います。

しかし父は私を、母が亡くなったあともずっと育ててくれました。父はいつも、私を応援してくれます。テニスをしていて、私が
「できない！」

とぐずっても、

「練習、練習。練習せにゃあ上手くならんじゃろ。」

と言って、練習相手になってくれます。

仕事をたくさんしていても、よくお出かけに連れていってくれます。本当に本当にありがたいです。

このように、私の父と母は私のためにがんばってくれた素晴らしい人です。

私は正直、母がいなくてさみしいです。でも、一生懸命私を産み、育ててくれました。天国にいても、あなたは私のお母さんです。

お父さん、いつも怒らせてばかりでごめんなさい。でも、一生懸命育ててくれてありがとう。お父さん達のおかげで、私は『人生』という道を日々歩めています。

お父さん、お母さん、本当にありがとう。これからもずっとずっと大好きです。

呉市立呉中央中学校

1年 世良 麻琴

今年、2020年は、特別な年だ。新型コロナウイルスの世界的な流行により、今まで通りの生活続ける事は難しくなったからだ。

私は、父、母と3人で暮らしている。学校や仕事で時間はバラバラだけど、家庭がそろえば同じテレビを見て笑ったり、話をしたり、中学生女子にしては親と話すことが多いのではないかと、思う。父は、早朝出勤するので残業などの都合で1日顔を合わせない日もあるし、夜勤もあるので生活時間は全く違う。しかし、休日は家族でご飯を食べ、ゆっくりとした時間を過ごしたり、買い物に行ったり遊びに行ったりしている。適度な距離感のある、心地良さがあると思う。

コロナウイルスの流行により、3月、4月、5月と休校が続いた。初めての中学校生活が波乱の幕開けとなった気がした。父、母も休業のため、家族全員が家にいる。全国に出された緊急事態宣言のために外出もほぼしなかったのも、朝から晩まで家族で過ごしていた。

最初は、この状況が初めてなので何も感じず、コロナウイルスのニュースを見て、課題や自宅の教材をこなす、人のいない時を見つけて家の前で縄とびをしたりして過ごした。今まで、父の長期休みは、年末年始、ゴールデンウィーク、お盆だったが、それらの時は外出ができた。家族で過ごす時間が長くてもいろいろな事ができるし、楽しい気持ちで過ごせたと思う。

今年は、制限のある分、何か息苦しさを感じてしまった。家族がきらいなわけでも、一緒にいたくないわけでもなかったが、学校にも行けず、することは毎日だいたい同じで、何もできないから話す事も減ってくる。一緒にいるが、それぞれが本を読んだり、ゲームをしたり、音楽を聞いたり、と、別々の事をする時間もあった。

家族とは、他の人と過ごす時に感じる様な軽い緊張や、常識的な遠りよの気持ちを感じる事は少ないし、そんな気持ちはあまり必要ないと思っていた。しかし、気をゆるした家族だからこそ、少しの心配りで気持ちが変わってくる事が少しずつわかった気がした。

例えば、母の手伝いをするにしても、今まではどちらかと言えば頼まれた事をしていたが、同じ事をするとしても自分から声をかけて手伝う方が気持ちが届く気がした。家族だから、何も言わなくても伝わる事もあるし、無言でも気まずくならない。しかし、近くですっと生活するからこそ、口に出さないと伝わらない事もあるし、距離を取るという意味だけではなく、「距離感」を大事にしたいと感じる様になった。

今の世界の状況が、いつまで続くかもわからないし、前の様な状況に戻るのかもわからない。家族の型は変わる事はあるけど、家族は変わらないなと思う。大切な物だ。一番近くにある大切な物を大事にするために、距離感を適度に保って、思いやりを忘れずに生活したいと思う。そして、みんなが楽しく過ごせる日常が早く戻ってくることを願いたい。

福山市立培遠中学校

2年 ^{しま}島 ^{はら}原 ^{こう}康 ^{へい}平

僕の家族は、父・母・9才の弟・5才の双子の弟・僕の6人です。父は優しいけど、怒ったらとても怖い存在です。母は4人の子育てと仕事でいつも大変そうです。9才の弟は言われたことをすぐにしないので、両親を困らせています。双子の弟たちは最近荒い言葉を覚えて暴言をはきます。さらに言いつけマンなのでそれをきっかけに兄弟げんかがほぼ毎日起きます。僕は勉強が大嫌いで両親からは「宿題終わったのか。」と言われます。でも家の手伝い（米とぎ・洗濯物とり込み・弟たちの世話など）は、よくしている方だと自分では思っています。大家族なのでご飯は二つのお窯で5合と8合の計13合炊きます。ぎょうざの時は100個でも足りません。いつも楽しくご飯を食べながら、僕はこんな家族のことを「大切な」と思っています。

そんな家族にこの夏休みに大問題がおきました。それは僕の夏休みの課題です。その課題は、答えがある国・社・数・理・英の課題は一見簡単そうなのでやりやすそうだが、やってみると時間はかかるし、分からない問題があると手が止まってやる気がうすれて、最終的にほったらかしにしてしまいます。さらに、国語の作文や社会の時事レポート・総合の調べ学習など文章を書くことが大嫌いなのでできる気がしません。さらには、美術のイラストや手作り雑巾の課題は人生が終わったような気がするものでした。この課題一人ではできない。そのことは一番両親が分かっていました。僕の夏休みの課題をどうやって終わらせるのかが我が家の大問題です。

そんな大問題の解決策は、母がおばあちゃんに相談した結果《家族総動員で応援する》に決定しました。弟たちでうるさい家では勉強が出来ないので、静かで落ち着くおばあちゃんの家で勉強をすることにしました。おばあちゃんの家への送り迎えは、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、おばさんが分担することになりました。弟たちは大好きなおばあちゃんの家に行きたいのを我慢してくれました。お母さんは失くした国語プリントを先生に頼んでもらってくれたり、毎日の勉強の進み具合を確認してくれたりしました。こんな役割分担を立てて僕の課題を終わらせるための家族チーム、名付けて「チーム康平」が誕生しました。嬉しいことに、おばあちゃんの家では僕のモチベーションを上げるためにおいしいランチを用意してくれます。厳しいだけでなく、僕のことを大切に思っている優しさも僕はしみじみと感じています。

この夏休みを通して家族について思うことは、もちろん家族は大事だけど協力してくれたおじさん・おばさん・おばあちゃん・おじいちゃんもみんな僕を支えてくれる大切な家族なんだと改めて感じました。いけないことを叱ってくれ、本気で怒ってくれ、頑張ったことはしっかりほめてくれ、できないことは全力で応援してくれる家族が僕にはいます。

広島県立三次中学校

2年 ^{なか}中 ^{むら}村 ^{はや}隼 ^と翔

僕は陸上部に所属している。走ることは大好きだ。中学生になってたくさんの大会に出場しているがいつも支えてくれたのは家族だった。

僕は、父と母と弟と4人で暮らしている。父も母も陸上の大会に出場した経験があり、その影響で僕も陸上を始めた。中学校の陸上部では厳しい練習に耐えながらも毎日楽しんで練習している。大会が近づいてくると、家族の支えが必要になる。大会前の1週間から2週間前は必ず近くの公園に行って父と練習をする。スタートの姿勢やスタート後の加速、腕の振り方や正しい走り方まで具体的に教えてくれる。自身の経験からアドバイスをしてくれるので話が分かりやすく説得力がある。しんどい時もある。でもやりたくないとは思わない。それは父の情熱や教えてくれる気持ちを無駄にしたくないからだろう。僕は大会前には走る。これが当たり前だ。

母もサポートをしてくれる。大会前にはアドバイスをしてくれたり大会当日にも弁当を作ってくれたりスタンドで応援してくれたり。その一つ一つの行動が僕を元気づけるに違いない。僕が大会で良い成績が残せるのは父と母のおかげなのだ。

新型コロナウイルスの影響で学校が休校になっている時も、土、日曜日は父とランニングに行き、汗を流した。この積み重ねがいつか役に立つと僕は思っている。

学校が再開して陸上の練習を続けていた。そんなある日、良い情報が入ってきた。新型コロナウイルスの影響でなくなっていた大会が夏にあるらしい。その知らせを聞いて、僕は喜んだ。やっと自分の力が出せるじゃないか、と。それを親に報告すると、
「頑張れ。」

と言われた。燃えてきた。

もうすぐ大会だ。1週間前にまた父と走った。新型コロナウイルスの影響で無観客で行われることになった。父は、
「見たかったのに残念。」

と言っていた。僕も残念だ。見てほしかった。しかし、大会があることだけでもうれしい。やるしかない、と思った。僕を支えてくれる大切な家族は見に来てくれないが、頑張ろう。家の中からでも僕に思いは届いているはずだから。

広島市立五月が丘中学校

3年 ^{かど}角 ^{やま}山 ^{かん}幹 ^た太

僕の家族は、両親・双子の兄・自分・妹・弟の6人です。それぞれを少し紹介すると、父は子供をそのまま大人にしたような人で、とても楽しい人です。母はとても優しく面白い人です。僕のニキビをつぶすのが好きという変わった趣味をもつ人です。兄は、やはり自分に似ていてよく同じことを考えていることがあります。でも兄の方は余計な一言が多く、よく怒られています。少し口うるさいけどしっかり者の妹、生意気だけどかわいい弟、みんなで毎日たのしく暮らしています。

そんな家族の時間の中でも特に好きな時間は、金曜日の夜と、ボードゲームをする時の時間です。

僕の家では、金曜日の夜に、好きな映画や面白そうな映画をレンタルしてきて、お菓子などを食べながら観るとというのが習慣のようなものになっています。みんなで笑ったり、ハラハラドキドキしながら観るのがとても楽しいです。観終わった後に、みんなでそれぞれの感想を言い合うのも楽しいです。

もう一つの僕の好きな時間は、ボードゲームをする時間です。ボードゲームは父が大好きで、僕達とやるために父が買ってきたのが始まりです。面白そうなものを買っていくうちに、今では40種類以上のボードゲームがあります。その中には、相手と心理戦をしたり、様々なものを効率よく使っていないと勝てないようなゲームもあります。

映画では観終わった後に、それぞれ感想を言い合う、ボードゲームでは、この作戦でいこうかな、相手はこうきた、だからこうやってやろうなど、様々なことを考えて行動する、そうやって家族と頭を使いながら過ごす時間が僕は好きです。

家族と頭を使って過ごすということは、自分で考える力、他の人の意見や考えを聞く力、他の人と意見を共有する力を身に付けられると思います。

「自分で考える力」、「他の人の意見や考えを聞く力」、「他の人と意見を共有する力」の三つは、これから、どんな仕事に就くにしてもどんな事をするにしても絶対に必要な力だと僕は思います。そんな力を家族と過ごす中で身に付けられるのはとても素晴らしい事だと思います。また、楽しみながら、自然と力を身に付けられる所もとても素晴らしいと思います。だから、僕はこれからも、家族みんなで頭を使いながら過ごす時間を楽しみながら大切にしていき、それで身に付けられる力を今後に生かせるように努力していきたいと思います。また、日常生活でどのように生かせるかという事も考えていきたいです。

広島市立宇品中学校

3年 ^ひ日 ^{やま}山 ^か花 ^{のん}音

私には双子の姉がいる。姉と私はバドミントンを習い始めたのも一緒、塾に行くのも一緒、部活動に行くのも一緒、遊びに行くのは一緒のことが多かった。私はこのようにずっと一緒にいる姉に対して思っていることがある。それは、うらやましいということだ。

姉は何をするにも、私より成績が上だ。同じ時に始めたバドミントンも、試合で良い結果を残すのは姉だ。それに、試験でも高い点数を取ることが多いのも姉である。新しいことを始めても上手くなるのは姉で、いつも私は負けてばかりなのだ。別に私がバドミントンの練習を怠っているわけではないし、勉強をしていないわけでもない。かといって、姉が特別練習や勉強をたくさんしているわけでもない。人によって違いがあるので、このようなことがあっても仕方がないとは思うが、さすがに負けてばかりなのは少しさえない。

しかし私は、負けてばかりだからこそ、姉の持っていないであろう気持ちを持っていると思っている。それは、次は勝つという強い気持ちだ。双子ということがあるせいか、姉に負けることは私にとって、他の誰に負けるより悔しいと感じる。だからこそ、その分勝ちたいという気持ちも大きい。私がこのような気持ちを持つことができるのは、私より優れた姉がいるからだと思う。強い気持ちがあるから私はバドミントンや勉強などを、頑張ることができると思う。もし、姉と私が同じくらいのレベルだったら、特に悔しい思いも、勝ちたいという思いも感じていなかったかもしれない。こう思うと、姉を超える立場にいて、良かったと思う。そんな姉は、私が強い気持ちを持つきっかけとなった、とても大切な存在である。

何をするにも私より成績が良い姉のことを、初めはうらやましいと思っていたのだがそれは逆に姉に負けたくない、次は勝つという、強い気持ちを与えてくれるものであって、私にとって良い刺激となっていることがわかった。姉はいつも私の視野の中にいて、時には支え合う仲間、時には勝負する敵という存在だ。ときどき、双子なんて嫌だと感じることもある。しかし、双子だからこそ身近にいる良きライバルとなることもある。だから私は双子の姉にこう伝えたい。「これからも良きライバルとしてよろしく。」と。

福山市立御幸小学校

3年 もん でん
門 田

こころ
心



かぞくみんなで集まって楽しい時間ができた

入 選

広島市立楠那小学校 1年 ^{なか}中 ^の野 ^せ世 ^り理



ちいさいときのわたしとパパ。

呉市立安登小学校 1年 ^{もり}森 ^{した}下 ^{えい}英 ^た太



なつやすみにいえて、プールをしたよ。

呉市立坪内小学校 2年 ^{なか}中 ^{はら}原 ^あ愛 ^ゆ結



レオマでお母さんとスライダー楽しかった。

広島市立戸坂小学校 4年 ^{すぎ}杉 ^{うら}浦 ^は芭 ^な奈



家庭の菜園が、出来る事が家庭の幸せな日々。

福山市立御幸小学校 6年 ^{やま}山 ^{なり}成 ^か花 ^{りん}凛



去年行った水族館の魚を家族の手形で表した。

令和2年度「家庭の日」作文・図画募集要綱

- 1 趣 旨

健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。

青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。

この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、小・中学生が、家族や家庭について日頃思っていることや感じていること、家族と一緒に体験したことなどを作文や図画に表現した作品を募集します。
- 2 対 象 者 県内に在住の小・中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 4 後 援 広島県・広島県教育委員会
- 5 協 賛 広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ、(敬称略、順不同)
- 6 応募方法

作 文

 - ・400字詰め原稿用紙3枚程度とします。
 - ・縦書きとし、はっきりと書いてください。
 - ・題の次に、学校名・学年・名前(ふりがな)を記入してください。

図 画

 - ・作品は4つ切りの画用紙とします。
 - ・画材は自由です。(クレパス、水彩絵の具等)
 - ・ポスターではないため、タイトルやキャッチフレーズは書かないでください。
 - ・裏面の「図画応募用紙」に記載し、作品の裏に貼付してください。
 - ・作品のコメントも忘れずに記載してください。

注意事項

 - ・一人1点に限ります。
 - ・本人の作品で未発表のものに限ります。
 - ・提出された作品は、返却しません。
 - ・企業名や商号の入った作品は対象外となります。
 - ・作成指導に当たっては、作品に直接手を加えないようにお願いします。
 - ・図画は送付時に丸めないでください。
- 7 応 募 数 作品は応募校で事前審査し、作文・図画それぞれ各学年5名以内で応募してください。なお、作品を書いた児童・生徒全員に参加賞を贈りますので、作品の応募総数を明記してください。
- 8 応募締切 令和2年9月2日(水) 必着
- 9 送 付 先 〒730-8511 広島市中区基町10番52号 広島県環境県民局県民活動課内
(公社) 青少年育成広島県民会議 電話 082-513-2742 / FAX 082-511-2173
- 10 審査方法
 - (1) 予備審査は作文のみとし、関係行政機関の職員、(公社) 青少年育成県民会議職員が行います。
 - (2) 事前審査は作文のみとし、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社) 青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。
 - (3) 作文・図画の審査会は、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社) 青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。
- 11 表 彰 特選者は、青少年育成県民運動推進大会において、広島県知事賞の賞状及び賞品を授与します。入選者は、当県民会議会長賞の賞状及び記念品を後日送付します。
- 12 副 賞 特選者は、1万円の図書カードを贈ります。また、応募者全員に参加賞を送付しますので、必ず応募者の控えをお持ちください。
- 13 そ の 他 入賞作品は、当県民会議発行の入賞作品集や、機関紙「せとのあさ」に掲載するなど広く活用させていただきます。

審査員及び審査要領

●作文の部審査員

宇佐川秀輝	(公社) 青少年育成広島県民会議常務理事
石田 睦子	三次市教育委員会社会教育委員
角濱 慶司	三次市立塩町中学校長
寺田 純子	広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
宮尾 茂	広島県環境県民局県民活動課長

●作文の部審査要領

1 選定方法

- (1) 特選（県知事賞）…… 3 作品
- (2) 入選（会長賞）……… 上位20作品程度を選定する。

2 審査の方法

(1) 事前審査

- ・小学校低・高学年，中学生の部をとおして，「家庭の日」の理解度，感銘度，論題にそった論旨，論点の整理，表現力，文の構成等を審査する。
- ・評点は10段階評価とする。
- ・特選を10点満点とし，小・中学生をとおして，特選3作品を選定する。
- ・入選は上位20作品程度を選定する。
- ・学年ごとに平均して選定しなくても良い。

(2) 審査会

事前審査の結果をもとに協議し，相互調整して特選，入選を選定する。

●図画の部審査員

濱田 昭法	元広島県教育研究会美術部会会長・元広島市教育研究会美術部会会長
宇佐川秀輝	(公社) 青少年育成広島県民会議常務理事
河村 陽子	広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
藤崎 綾	広島県立美術館主任学芸員
宮尾 茂	広島県環境県民局県民活動課長

●図画の部審査要領

1 選定方法

- (1) 特選（県知事賞）…… 1 作品
- (2) 入選（会長賞）……… 5 作品

2 審査の方法

- (1) 作品ごとに，表現力，構合力，家庭の日の理解度等を審査する。
- (2) 候補作品を学年ごとに並べ，審査員は1学年ごとに，5点ぐらい選定する。なお，各審査員同士が同一作品を選定しても良い。
- (3) 候補作品は必ずしも各学年から均等に選ばなくてもよいが，できれば小学校（低・中・高学年），中学校のバランスを考慮する。
- (4) 審査員が全学年の作品を見た後，(2)で選んだ作品を全部並べ，その中から特選1点，入選5点を協議により選定する。

令和2年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

小学校の部		作 文								図 画								応募	参加
番号	学 校 名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	作・ 参加 人数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	図・ 参加 人数	総数	人数
1	三原市立糸崎小学校	5	3	5				13	73							0	0	13	73
2	広島市立大町小学校		1			2	1	4	4	5	3	5	2	4	1	20	22	24	26
3	東広島市立西条小学校		1	1	1		1	4	16	4	4	2	1			11	20	15	36
4	福山市立御幸小学校		1		4		3	8	12	1	5	2	3	5	1	17	17	25	29
5	呉市立安登小学校			5				5	19	5	5					10	37	15	56
6	広島市立楠那小学校					1		1	1	1						1	1	2	2
7	東広島市立龍王小学校		1		1	1	1	4	4	2	3	5	3	2	1	16	16	20	20
8	広島市立東浄小学校		1					1	1	2		2				4	4	5	5
9	廿日市市立平良小学校		1			1		2	2		2	2	1			5	5	7	7
10	広島市立戸坂小学校			1	5	2	5	13	34	5	5	5	5	4	2	26	40	39	74
11	熊野町立熊野第四小学校			1				1	1	1						1	1	2	2
12	三原市立沼田西小学校		1					1	1			2		1		3	3	4	4
13	東広島市立寺西小学校			2	1	1		4	6				1	1		2	6	6	12
14	三次市立酒河小学校	1						1	1	2		1		2		5	5	6	6
15	呉市立昭和北小学校				1	1	3	5	5	3		2	1		1	7	7	12	12
16	福山市立駅家小学校		1					1	6	2		3				5	6	6	12
17	東広島市立三ツ城小学校				2	1	1	4	4								0	4	4
18	広島市立筒瀬小学校			1				1	1								0	1	1
19	広島市立翠町小学校		1					1	1	4	5	1	4			14	17	15	18
20	府中市栗生小学校						1	1	1									1	1
21	広島県立広島南特別支援学校					1		1	1									1	1
22	福山市立春日小学校									3	5	1	1			10	68	10	68
23	東広島市立高屋西小学校									4		1	2			7	7	7	7
24	竹原市立荘野小学校											1				1	1	1	1
25	広島市立亀山小学校									1	1					2	2	2	2
26	福山市立多治米小学校									1		1	2	3		7	7	7	7
27	大崎上島町立木江小学校													1		1	1	1	1
28	広島市立中野東小学校									1	1					2	4	2	4
29	広島市立古田台小学校									1	1		1			3	3	3	3
30	神石高原町立油木小学校									1						1	1	1	1
31	福山市立曙小学校									1	2		1	1		5	5	5	5
32	呉市立坪内小学校										5					5	25	5	25
33	呉市立宮原小学校										1					1	1	1	1
34	福山市立水呑小学校									3	3	3			1	10	10	10	10
35	福山市立西小学校									2		1	1			4	4	4	4
36	広島市立大河小学校										2	2				4	4	4	4
37	広島市立己斐東小学校									1	2	2				5	5	5	5
合 計		6	12	16	15	11	16	76	194	56	55	44	29	24	7	215	355	291	549

令和2年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

中学校の部		作 文					図 画					応募	参加
番号	学 校 名	1年	2年	3年	計	作・ 参加 人数	1年	2年	3年	計	図・ 参加 人数	総数	人数
1	広島市立戸山中学校	4	5	3	12	12						12	12
2	福山市立培遠中学校	2	1		3	94						3	94
3	海田町立海田中学校			5	5	41						5	41
4	広島市立仁保中学校	5			5	74						5	74
5	広島県立三次中学校		5		5	80						5	80
6	三原市立大和中学校	4		1	5	9						5	9
7	広島市立宇品中学校	1	5	5	11	54						11	54
8	東広島市立安芸津中学校	3	1	4	8	13						8	13
9	東広島市立中央中学校	5	4	5	14	14						14	14
10	福山市立加茂中学校		4	5	9	21						9	21
11	広島県立広島観智学園中学校	1	1		2	2						2	2
12	呉市立呉中央中学校	5	5	5	15	23						15	23
13	広島市立五月が丘中学校			3	3	10						3	10
14	広島市立五日市中学校			2	2	2						2	2
15	広島市立井口台中学校	5			5	80						5	80
16	呉市立音戸中学校			1	1	1						1	1
17	海田町立海田西中学校	2	2	2	6	51						6	51
18	福山市立新市中央中学校	5	5	5	15	43						15	43
19	庄原市立庄原中学校	5			5	139						5	139
20	三原市立甲奴中学校	5	1	2	8	8						8	8
21	福山市立鳳中学校							3		3	3	3	3
22	尾道市立向島中学校							1		1	3	1	3
23	北広島町立大朝中学校							2		2	2	2	2
	合 計	52	39	48	139	771	0	6	0	6	8	145	779

令和2年度入賞作品集
「少年の主張」・中学生話し方大会
「家庭の日」に関する作文・図画

発 行

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10番52号
広島県環境県民局県民活動課内

TEL 082-513-2742 FAX 082-511-2173

URL : <http://www.hiro-payd.or.jp/>



あなたの挨拶

♡ いいね

♡ いいね

おはよう!

挨拶から
はじまる
いい1日

広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー

